

# 演 習 の 目 次

## 経済学科

大 野 ……	1	ラ ナ デ ……	2	佐 藤 ……	3	久 松 ……	4
姚 ……	6	横 山 ……	7	岡 田 ……	9	沖 ……	11
加 藤 ……	12	星 野 ……	14	長 山 ……	16	藤 原 ……	17
天 谷 ……	19	持 田 ……	21	宮 崎 ……	23		

## 経営システム学科

藤 村 ……	25	井上(善) ……	27	朴(鏡) ……	28	安 井 ……	29
古 川 ……	30	朴(恩) ……	31	青 木 ……	32	宮 脇 ……	33
繁 本 ……	35	松 岡 ……	37	向 ……	39	嘉 本 ……	41
趙 ……	43	張 ……	44	大 杉 ……	46	細 見 ……	48

## 地域社会システム学科

原 ……	50	宮 島 ……	52	山 本 ……	54	西 成 ……	56
緒 方 ……	58	川 端 ……	60				

ナンバリングコード B4STT-bcdE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 313705) 演習 (大野) Seminar Excel VBAによるデータ分析	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4STT	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 大野 拓行	関連授業科目	情報リテラシー、統計学、計量経済学、マクロ経済学	
	履修推奨科目	経済統計	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
授業の概要 Excel VBAは、Excelに標準装備されているプログラム言語です。この演習においては、Excel VBAを学習することを通じて、Excelの技能を高めるとともに、Excel VBAを利用したデータ分析ができるようになることを目指します。VBAに関する知識は演習の中で修得していきますので、履修前の知識は不要です。			
授業の目的 Excel VBAを学習することを通じて、Excelの技能を高めるとともに、Excel VBAを利用したデータ分析ができるようになることを目指します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>Excel VBAでプログラムできるようになる。</li> <li>Excelによる分析能力を上達させる。</li> <li>統計的分析手法を修得する。</li> <li>他者との共同作業ができるようになる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 演習への参加態度。無断欠席3回以上の者には単位を出さない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>選考基準 Excelをもっと知りたいという意欲 関連授業科目の単位修得状況 これまでの単位修得状況 (全体)</li> <li>授業計画並びに授業及び学習の方法 パソコンを用いた実習を中心に勉強していきます。</li> </ul>			
教科書・参考書等 使用するテキストを、別途、指示する。			
オフィスアワー 月曜日12:00～13:00			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度個別演習選考基準 演習において、卒業論文を作成するために必要な問題意識の糸口が見いだせているかどうかで判断したい。</li> <li>平成31年度個別演習単位認定方法 個別演習への参加態度と卒業論文への取組み姿勢</li> <li>平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 内容により単位認定を行なう。</li> </ul>			

ナンバリングコード B4ECN-bcdE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 313706) 演習 (ラナデ) Seminar 数理経済学及び応用ミクロ分析 (Mathematical Economics & Applied Microeconomic Analysis)	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応20
	授業形態 Ex	単位数4	
担当教員名 ラナデ	関連授業科目	経済学の全て	
	履修推奨科目 履修は望ましい	経済数学、経済数学基礎、ミクロ、マクロなど	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> この講義では経済理論の数学的な研究を指導します。初めにAdam Smith時代の経済理論を紹介をし、次に、Ricardo, Marx, Walrasの基本的な考え方及び分析方法について学生と討論をします。古典派経済学と新古典派経済学の違うところをはっきりさせてから、後半には、ミクロ経済学の基礎を指導します。さらに、まわりの社会で見られる実際問題の分析方法を指導します。この演習でしっかり勉強をすると3・4年次の経済学関係のすべて科目の単位とは簡単になります。			
<b>授業の目的</b> 経済学を論理的・数学的に考える。特に応用を学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 周りの経済・社会のミクロlevelの問題を論理的に考えることができる。 2. その問題の応用分析ができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 講義中の討論の内容によって評価する。まじめに出席して、討論に積極的に参加した学生を評価します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>選考基準:</b> 希望者が定員を超えない場合は簡単に受けませんが、超えた場合には成績によって選考します。 <b>授業方法:</b> 板書と討論が授業の中心です。  <b>前期の授業計画:</b> 数理経済学及び応用ミクロの練習問題を解きながら研究をします 学生の希望によって変化可能ですが、予定は次のとおりです。  第1回～第2回: 古典派経済学と新古典派経済学 第3回～第6回: 独占、寡占問題の基礎、Cournot均衡など。 第7回～第10回: 数理統計学の基礎 第11回～第14回: 一般均衡の基礎  <b>後期の授業計画:</b> 第15回～第30回: 学生の希望によってテーマをえらびます。  <b>自学実習:</b> Homeworkはしなければなりません。			
<b>教科書・参考書等</b> とくに決まっていますが、講義中いくつかのテキストの紹介があります。 とくに決まっていますが、講義中いくつかの本の紹介があります。			
<b>オフィスアワー</b> 基本的にいつでもOKですが-18時に研究室にいる可能性が高い。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 4年次に卒業論文のテーマは学生が自分で決めますが毎回そのテーマについて5000字の文章を作って発表しなければなりません。できない人に個別演習の単位は出ません。論文は必修ですのでしっかりがんばったら単位は当然です。 <b>【平成31年度の個別演習選考基準】</b> 演習の成績によって選考する。 <b>【平成31年度の個別演習単位認定方法】</b> 報告と討論の内容によって評価する。 <b>【平成31年度の卒業論文作成要領と卒業論文認定方針】</b> 数学を使わない場合は2万字以上、数学を使う場合は1万字以上。論文の内容によって評価する。			

ナンバリングコード B4ECN-cabE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313717) 演習 (佐藤) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cabE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 佐藤 忍	関連授業科目	Eg	
	履修推奨科目	社会政策A・B	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
授業の概要 社会政策を研究するという事は、要するに、私たち自身の生き方を考えるということだ。働きかた、家族のありかた、老いかた、およそ人が生きていくうえで否応なく直面する生活上の諸問題に関わるさまざまな事柄について現状を把握し、問題点を見つけ、あるべき対処について考察するという事である。社会問題への感受性を高め、そして自己の生き方を省察し、見つめ直すきっかけとなるであろう。			
授業の目的 卒業論文に必要な専門分野の知識および基本的な文章作成能力を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
社会政策に関するレジュメないしレポートを書くことができる。 社会政策に関するプレゼンテーションができる。 社会政策に関する討論ができる。			
成績評価の方法と基準 日頃の研究姿勢、研究発表、およびレポートの質に基づき総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p><b>【演習選考基準】</b> 面接により決定する。演習履修希望者の数が定員に満たない場合には、原則として、全員受け入れる。定員を超える履修希望者がある場合には、研究題目に対する興味関心をより具体的に説明できる人を優先して受け入れる。すべての演習希望者は面接にあたって研究題目に関連するトピックをひとつ選択し、なぜそれを選んだか、そしてそのどこが面白そうかということについて、A4版1枚のレポート(手書き不可)にまとめ、提出すること。</p> <p><b>【授業の計画と方法】</b> 共通のテキストを輪読することで、社会政策上の重要なトピックスについて研究する。 授業を進めるにあたって、あらかじめ報告者と主討論者をテキストの各章ごとに決定する。報告者は内容をまとめ、報告する。主討論者は問題点と議論の素材を提起する。 さらに、夏休み合宿等を通じてゼミ生相互の親睦を深める。また各自のテーマに沿った研究発表なども実施する。その成果は『香川大学・島根大学合同ゼミナール研究論文集』に纏める。</p>			
教科書・参考書等 教科書：未定(決定次第、連絡する。) 参考書：適宜、指示する。			
オフィスアワー 火曜3時間目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ゼミの諸行事、とりわけ夏季合宿には積極的に参加すること。			
<p><b>【平成31年度個別演習選考基準】</b> 研究題目に対する興味関心を持続させ、それを自らのテーマの設定によって一層深化させ、そして論文にまとめる意志のある人。したがって、研究題目に対する興味関心を喪失した人、あるいは自己のテーマを設定できない人は、履修をお断りすることがある。</p> <p><b>【平成31年度個別演習単位認定方針】</b> ゼミにおける発表・討論など日頃の研究姿勢に基づき総合的に評価する。</p> <p><b>【平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】</b> 各自のテーマに関して、既存の研究水準を適切に摂取・サーベイし、独自の視点から整理統合したものでなければならない。ワープロ使用のこと。A4版上質紙(40字/行×38行/頁)20枚以上を標準とする。</p>			

ナンバリングコード B4STT-bcxE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 313707) 演習 (久松) Seminar 統計データを使った論証の理論と方法	科目区分 必修科目	時間割 前期未定/後期未定	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 久松 博之	関連授業科目	統計学入門, 統計学	
	履修推奨科目	計量経済学 I, 計量経済学 II	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
授業の概要 テキストを輪読して論文の組み立て方を身につける。ゼミの卒業生の卒論を読んで長所と短所を評価する。卒論作成の準備作業として問いのフィールド, 仮のテーマ, 仮の主題文, キーワード一覧を作成し, 材料を集めてアウトラインを作成する。			
授業の目的 論証の仕方を身に付け, 自分でテーマを決めて仮説を立て, 統計データを駆使して仮説の妥当性を検証できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>統計学や計量経済学の基礎知識をもとに, 統計分析の方法を検証に使えるようになる。</li> <li>論文の組み立て方を身につける。</li> <li>データ分析結果をもとに論証する方法を身につける。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 出席状況と受講態度を見て判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【選考基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>単位取得状況と演習に取り組む意欲があるかどうかで判断する。</li> <li>統計学入門、統計学の単位を取得済みであること。</li> </ol> <p>【授業計画並びに授業及び学習の方法】</p> <p>卒論のテーマは各自の自由。自分が持っている素朴な疑問にたいしてこうではないかと仮説を立て、関連する情報を調べて仮説の妥当性をデータを使って検証する。前期は論文の組み立て方のテキストを中心に輪読する。そのうえで、ゼミの卒業生の卒論を読んで内容を説明しながら、客観的立場でその長所と短所を評価する。次に、卒論の仮のテーマを決めて論文作成に使えるような情報をネットや図書館などで探し、個別演習のスタート時点までに仮のアウトラインが出来上がるようにする。</p> <p>I. 論文の組み立て方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>『レポートの組み立て方』木下是雄著, 『新版 論文の教室』戸田山和久著を輪読。</li> <li>論証 (仮説を検証する) 方法</li> <li>情報 (データおよび文献) の収集と整理</li> <li>アウトラインの作成と集めた情報との関連付け</li> <li>文章の作成技法</li> </ol> <p>II. 卒論作成のための準備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ゼミ卒業生の卒論を数本読んで概略を説明し, 長所と短所を客観的に評価する。</li> <li>回帰分析を使った卒論と使わない卒論での論証の仕方の違いを理解する。</li> <li>仮のテーマ, 仮の主題文 (何を検証しようとしているのか) を考える。</li> <li>Webや図書館などから材料 (関連記事や統計データなど) が入手可能か調べる。</li> <li>問いのフィールドを作成する。</li> <li>アウトラインの作成へ</li> </ol> <p>III. その他の活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>統計学関係の話題の本を輪読する。</li> <li>レクリエーション: ゼミ単位での音楽鑑賞等 (ゼミ生が希望すれば実施)</li> </ol> <p>*履修希望者は統計学入門および統計学の単位を取得済みであること。計量経済学Iおよび計量経済学IIを履修していることが望ましいが, 未履修である場合は回帰分析の手法とExcelでの処理の仕方を講義形式で指導する。</p>			

教科書・参考書等

1. 論文作成方法

『レポートの組み立て方』木下是雄著，1994年，ちくま学芸文庫，780円＋税

『新版 論文の教室』戸田山和久著，NHKブックス，2012年，1200円＋税

2. 統計学

『プレステップ統計学I 記述統計学』，稲葉由之著，弘文堂，2012年，1800円＋税

『プレステップ統計学II 推測統計学』，稲葉由之著，弘文堂，2013年，1800円＋税

3. 計量経済学

『入門計量経済学』山本 拓，竹内 明香著，新世社，2013年，2700円＋税

『計量経済学』山本拓著，新世社，1995年初版，2013年第25刷，3300円＋税

オフィスアワー

火曜日 4 限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・平成31年度個別演習選考基準

演習への取り組み方を見て判断する.

- ・平成31年度個別演習単位認定方法

出席状況，受講態度，卒論研究への取り組み方を見て判断する.

- ・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

卒業論文作成は，主題文（仮のテーマ，仮の主題文，キーワード一覧）を作成し，材料が集まったら構成表（章の構成と材料との関連をまとめた表）を作成する．主題文の作成は演習で行う場合がある．毎週，卒論作成の進捗状況を報告し，改訂して卒論を完成させる．卒論のボリュームの目安は，図表含めてA4サイズで30枚以上.

ナンバリングコード B4ECN-bceE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 313708) 演習 (姚) Seminar 日中経済の実証分析	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 姚 峰	関連授業科目	統計学入門	
	履修推奨科目	アジア経済論	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
授業の概要 演習の前半では、経済分析の基礎知識を勉強する上、日中経済に関するテキストを選定し、ゼミ形式で研究報告を行う。後半では、統計分析の視点でゼミ生各自の関心のある日中経済に関する新聞記事・研究報告・研究論文などを報告する。研究課題を選定する際に日中国際観光、財政金融証券、環境とエネルギー、人口と労働力などに関連するテーマを勧める。必要に応じてデータの収集・整理・加工などの基礎知識と統計処理手法を補講する。 海外研修旅行を実施する可能性がある。			
授業の目的 経済活動が加速的にグローバル化している中、日中経済発展の現状と国際貿易交流などを正確に認識する。豊富な地域経済知識を身に付け、国際的に活躍できる人材になる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. アジア経済と社会情勢を客観的に正しく認識することができる。 2. 国際的な経済活動のなかで適切な行動をとることができる。 3. 統計分析手法を用いてアジア経済問題を解析できる。			
成績評価の方法と基準 研究討論の参加(40%)とレポート(60%)による総合判定。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 選考基準: 日中経済の実証分析に興味があること; 積極性と協調性; 無断欠席しないこと。  授業計画並びに授業及び学習の方法: 研究発表は液晶プロジェクターによるプレゼンテーションを行う。必要に応じて講義資料などを適時に配布する。  第1回 ガイダンス 第2～3回 予備知識の学習 第4～6回 日中経済に関するテキスト選定 第7～15回 研究報告・討論 第16～17回 日中経済に関する研究題目選定 第18～21回 研究資料の収集・整理・報告 第22～27回 研究発表・討論 第28～29回 卒論テーマ選定 第30回 まとめ			
学習方法: 1. 実証分析に必要な知識を勉強する。 2. 関心度の高い日中経済に関する研究題目を選定する。 3. 研究資料の収集・整理に努力し、積極的に研究報告を行う。 4. 研究発表の結果を生かし、卒論テーマ選定する。			
教科書・参考書等 ゼミ生と相談するうえ決定する。 参考:「図でわかる中国経済」、馬成三、蒼蒼社。			
オフィスアワー 火曜日4校時、幸町南4号館3階、姚研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 次年度に個別演習を開講する予定はない。 年度中に卒業論文を作成すること。			

ナンバリングコード B4STT-abcE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313710) 演習 (横山) Seminar 経済現象に関する統計的分析	科目区分 必修科目	時間割 前期金5/後期金5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4STT	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目	統計学等	
	履修推奨科目	経済学科の科目全般	
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 統計的な手法を用いて日本経済を分析することを目的とする。 教員の指導のもと、教科書の輪読やコンピュータの利用を通して経済の分析や解釈について学習していく。授業ではツールとしてコンピュータを用いて画面をプロジェクターに投影し解説することもある。同じく学生にもそうしたツールを用いることができるようにしたい。			
<b>授業の目的</b> 経済統計の知識を醸成するとともに、計算機を用いた分析に関しても習得する。最終的には次年度に卒業論文を作成するわけであるが、その作成に必要な基礎的学習と、基礎的な文章作成能力を身につける。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
経済のしくみについて理解できるようになる。 プレゼンテーション能力を培う。 計算機リテラシーの能力を養成する。 個別演習へのテーマを設定ができる。 必要な議論を行うことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席および普段の学習態度による。 無断欠席に関しては単位を認定しない可能性がある。 各学生には担当部分に関して課題を与えるので、それに関して誠実に取り組むことが要求される。 出席および普段の学習態度による。無断欠席に関しては単位を認定しない可能性があるので注意すること。 なお、前年度急病になったという理由でメールのみでの欠席を行ったものがいたので、今後は病気の検証を行い、2回以上同様のことを行った場合には単位は出さない。また、交通事情における遅刻・欠席も公的な理由でない限り同様である。また、演習の間は、スマホ等は使用しないこと。守らない場合には成績評価程度ではなく、単位として認定しない可能性がある。			
最終的に学習態度に問題があると感じた学生には、試験を行う可能性がある。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
・選考基準  経済分析に興味があり、課題に積極的に取り組む学生を希望する。Excelなど表計算ソフト程度は使えることが望ましい。 また協調性を持ち、グループワークが可能なもの。 責任を持って課題に取り組めるもの。			
・授業計画並びに授業および学習の方法  演習を行ううえで、 ①政府刊行書など経済の解説書を輪読 ②実際のデータを用いた分析（表計算ソフトなどを利用）  という二つの側面から検証することで、日本経済を統計的側面から分析することを目的としたい。ただし、学生によっては二つの側面のいずれかに興味が偏りがちであり、必ずしもバランス良く両方をこなすことができないかもしれない。最終的にどのような程度上の2点を混ぜ合わせるかは演習に参加しようとする学生の総意を持って決めることとしたい。協議して決めた教科書は早急に購入すること。			
なお、演習参加者が少数の場合には①②以外の側面も含め学生と相談して決めることにしたい。			

教科書・参考書等

可能であれば、演習参加者と協議して決めたい。

そうした意味で未定ではあるが、統計的な観点に基づく経済分析の本を予定している。①であれば『経済財政白書』などの政府刊行書、②であれば、データ分析について説明した本を予定している。

授業の進行に伴い、適時指示する。

オフィスアワー

授業の時間以外にも必要に応じて質問相談等を受ける用意がある。具体的時間に関しては第1回目の演習時において示すことにしたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・平成31年度個別演習選考基準

演習で行った程度の基礎知識を有し、個別演習においても真剣に取り組むと確約できる学生であれば受け入れると言いたいところであるが、無断欠席、怪しげな急病や交通事情を理由にして欠席したものは受け入れない。

・平成31年度個別演習単位認定方法

課題をこなし、定期的に報告を行うこと、評価は個別演習での学習態度を勘案する。評価方法は基本的に演習と同様である。

・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

卒業論文等の作成時に別途に指示を与える予定ではあるが、個別演習において行ったことをA4サイズで20枚以上にまとめることを基本とする。最終的に他の受講生を含めた中で発表を行い、その優劣を含め評価する。

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313721) 演習 (岡田) Seminar 経済政策の実証研究	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目	経済政策I, II	
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> アクティブラーニングのグループ討論形式を用いて、経済政策に関わる文献の輪読・討論・研究成果（レポート）の作成を行なう。前期は、政策研究に関する基礎的な文献を輪読し討論を行なう。後期は、夏休みの課題レポートを基に、ゼミ生による発表と討論を行なうほか、やや専門性を高めた政策研究に関する文献を輪読し討論を行ない、次年度の卒業論文の作成に備える。なお、正規の演習時間外（夏休み）に、研修旅行を行なう。			
<b>授業の目的</b> 経済政策に関わるさまざまなトピックを深く理解することを目的とする。財政政策、金融政策、労働・社会政策、環境政策、対外経済政策などの諸政策について、学生諸君が、その歴史と現状の把握、あるいは海外の諸制度との比較をできるようにする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経済政策に関わる諸制度の現状について説明できる。 2. 経済政策に関わる諸制度の歴史的な発展とその変遷について説明できる。 3. 経済政策に関わる諸制度について、日本と海外の事例を比較し説明できる。 4. 経済政策に関わる諸制度の問題点を明らかにし、解決策を提案できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 報告担当時の報告内容 (40点), 出席・討論参加状況 (30点), 課題レポート (30点) の100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。評価にはルーブリック評価表を用いる。なお、無断欠席をしたものは不可とする。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ・選考基準 1. 研究意欲があるかどうか。 2. (時間外を含めた) ゼミ活動全般に参加する意志があるかどうか。 3. 1, 2年次の成績 (単位修得数)。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 アクティブラーニング (能動的学修) によるグループ討論を基本とする。 第1回 ガイダンスとイントロダクション 第2回～第15回 SGCIME編『現代経済の解説 (第3版)』の輪読・討論 第16回～第22回 後期テキストの輪読・討論 第23回～第24回 ゼミ生による夏休みの課題発表と討論 第25回～第30回 後期テキストの輪読・討論 テキストの輪読・討論に当たっては、各回に報告担当者を決める。 事前準備として、報告担当者は、テキストの内容に即した「レジュメ」を作成したうえで、参加者の質問に答えられるよう下調べを行ない、演習に臨まなければならない。他の参加者は、テキストの該当範囲を熟読し、分からなかった単語・単純な疑問と、討論に値する問題点・論点のそれぞれを「討論カード」に整理し、ゼミ前日までに提出しなければならない。 当日は、レジュメ (報告者) 論点と討論カード論点に基づいて、3～5人の小グループで討論する。司会と書記を交互に担当すること。討論終了後、書記が、ゼミ全体に向けて発表を行なう。指導教員による助言と、報告担当者の総括コメントでゼミを締めくくる。			
<b>教科書・参考書等</b> 前期: SGCIME編『現代経済の解説 (第3版)』御茶ノ水書房, 2017年, 2500円。 後期: 既刊の良書を選択する。			

テキストは、ゼミ全体で共同購入するので、生協や一般書店等で購入してはならない。

これ以外に、通年で必要となる経済辞典として：  
金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典』第5版。  
を指定する。生協や一般書店等で購入して、必ず演習時に持参すること。

オフィスアワー  
火曜日IV時限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・平成31年度個別演習選考基準

本演習の修了者： 演習の成績による。

他の演習の修了者： 自由科目（自学科と他学科）を15科目（30単位）以上、既に修得している事を前提とし、面接のうえ可否を決定する。

- ・平成31年度個別演習単位認定方法

報告担当時の報告内容（40点）、出席・討論参加状況（30点）、卒業論文（準備論文を含む）（30点）の100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。評価にはルーブリック評価表を用いる。なお、無断欠席をしたものは不可とする。

- ・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

20000字以上の論文でなければならない。作成要領の詳細は個別演習の中で指示する。単位認定にあたっては、自らの新しい見解・論点（独創性）が盛り込まれていることを要件とする。必ず、卒業論文指導を受ける事。

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313711) 演習 (沖) Seminar 経済学の歴史	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目	政治経済学Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目	政治経済学Ⅰ・Ⅱ	
学習時間 演習120分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 経済学の父と呼ばれるアダム・スミスの思想を学びます。アダム・スミスはたんなる経済学者ではありません。今日で言うところの、法学、歴史学、倫理学、心理学、文学など、人文・社会科学の全般にわたって重要な足跡を残した、言わば知の巨人です。このゼミでは、この「巨人の肩の上に乗って」、狭い意味での経済学にとどまらない幅広い視野を身につけることを目指します。			
<b>授業の目的</b> 古典的な著作を読み解くことを通じて、経済社会の本質や構造に対する高度な理解力を養います。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 古典的著作のような平易ではないテキストを正確に理解することができる。 2. 他人の意見を批判的に吟味することができる。 3. スミスの思想の特徴を説明することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席状況、報告内容、議論への参加の積極性などにより総合的に判断します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>選考基準：</b> 面接により決定します。面接では、これまでの履修状況と、演習に積極的に取り組む意欲があるかどうかを主な判断基準とします。面接には最新の成績表を持参してください。			
なお、選考基準ではありませんが、この演習はとくに次のような人に向いてい（ると思い）ます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学のみならず、哲学、歴史学、心理学、文学等にも興味がある人</li> <li>・「～とは何か」といった本質的な問いについて深く考えてみたい人</li> <li>・常識の見方や教科書的知識に対して疑問を抱いている人</li> </ul>			
また、次のような人にはあまり向いていません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的な議論が苦手で、具体的なことにしか興味をもてない人</li> <li>・すぐに役立つ実践的な知識・情報にしか価値を見いだせない人</li> <li>・本を読むのが嫌いな人</li> </ul>			
<b>授業計画：</b> 前期は、アダム・スミスの代表的著作の一つである『国富論』を輪読します。後期は、スミスに関する入門的な文献や最新の研究動向も適宜扱います。			
<b>自学自習：</b> 報告担当者はレジュメを作成するなど、報告の準備をします。それ以外の参加者は文献を精読し、疑問点や論点を用意します。			
<b>教科書・参考書等</b> アダム・スミス『国富論』1・2（水田洋監訳、岩波文庫、2000年）			
<b>オフィスアワー</b> 初回時に指定します。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 平成31年度個別演習選考基準： 前年度演習の履修状況から判断します。			
平成31年度個別演習単位認定方法： 出席状況、報告内容、議論への参加の積極性などにより総合的に判断します。			
平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針： 受講者には執筆要綱を配布します。認定の基準は、展開が論理的であるか、先行研究への言及があるか、学術論文としての体裁が整っているか、などです。			



**【授業及び学習の方法】**

- (1) 授業は、ゼミ生の報告とディスカッションを中心に進めます。必要に応じて、講義やグループワーク等も行います。
- (2) 報告担当者は、報告レジュメを作成し、当日、参加者全員に配布できるように準備してください。わからない言葉等は事前に調べてください。
- (3) 報告担当者以外の参加者も、事前にテキストや資料に目を通し、授業時に質問・コメントができるように準備してください。
- (4) 夏休みなどに、補講授業を行う可能性があります。実施時には、全員参加となります。
- (5) 他大学等と合同ゼミを行う可能性があります。実施する場合には、全員に必ず参加してもらいます。

**【自学自習のためのアドバイス】**

- 第3回-第13回：報告者は報告の準備をする。報告者以外は、予習としてテキストを読み、授業内で議論するための論点を考えてくる。
- 第14回-第15回：今後の研究テーマについて、参考文献(図書、論文、各種資料)を探して、概要を授業時に紹介できるようにしておく。
- 第16回-第17回：夏休み中の研究の進捗状況を報告できるように、準備をしておく。
- 第18回-第24回：第25回-第27回での報告に向けて、参考文献を読み、報告資料を作成する。
- 第28回-第30回：卒業論文のテーマについて、分析視角とテーマの概要、目次案、参考文献について紹介できるように準備する。

**教科書・参考書等**

- ・授業内に指示します。

**オフィスアワー**

水曜12:00-13:00

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

無断欠席は厳禁。

積極性と主体性をもって参加してください。

**【平成31年度個別演習選考基準】**

- ・演習における取り組み状況と卒業論文への意欲によって判断します。

**【平成31年度個別演習単位認定方法】**

- ・卒業論文作成の進行状況、授業への参加姿勢によって判断します。

**【平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】**

- ・字数は原則として20,000字以上。演習に関連するテーマを設定すること。
- ・分析視角、論理構成、先行研究及び資料・データ等の分析内容等から評価する。

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 313712) 演習 (星野) Seminar ミクロ経済学演習	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目	経済数学入門, 経済と数学, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II, 応用ミクロ経済学, 数理経済学	
	履修推奨科目	経済数学入門, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 ミクロ経済学の理論と応用, 特に市場メカニズムの限界と対策に関わる話題 (不完全競争・外部性・不確実性・経済厚生など) について, テキスト精読 (解答作りと問題作り) を通して学びます. ゼミ発表のステップ1は, テキストの問題と解答について, 用語や結果を日常レベルで説明してみる, 説明の行間を埋める, 図表を追加してみることです. ステップ2は, テキストの問題をアレンジして新しい問題を自分で作って自分で解き, 新しい情報を引き出すことです. こうした学習を通じて, ミクロ経済学的な思考方法, そして数学的モデルを使った分析手法を身につけます. さらに近年の学問的展開を反映した市場取引の教室実験についても学び, これをテーマに高校生に出前授業を皆協力して行います. 報告資料の作成と発表, 出前授業の準備と実施を通じて, 口頭と文章による表現力を養います. 経済に関わる日常の実感や現実の経済問題について, ミクロ経済学の言葉に翻訳し考える力を養うことを目指します.			
授業の目的 1. ミクロ経済学の概念と分析手法を習得する. 2. 現実の経済現象や経済問題を経済学的に分析する能力を身につける. 3. コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につける.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. ミクロ経済学の概念と分析手法を例や図を用いて説明することができる. 2. 現実の経済現象や経済問題を経済学の概念に翻訳して表現できる. 3. わかりやすい報告資料の作成と発表を行うことができる.			
成績評価の方法と基準 参加態度, 報告内容, 宿題(適宜), レポート課題(夏・春)を総合評価して認定します. 無断欠席は厳禁です. 場合によっては単位を認定しません.			
授業計画並びに授業及び学習の方法 ・選考基準: 志望理由書と個別成績表に基づき面接を行います. 選考当日には志望理由書 (A4判1枚1200字程度) と個別成績表 (1・2年次の成績がわかるもの) の2点を用意して下さい. 選考基準は次の3点です: 1. ミクロ経済学に興味があり, ゼミ研究の基盤となる授業科目 (経済数学入門・ミクロ経済学I・ミクロ経済学II) を履修しているか. 2. 時間外を含めたゼミ活動と運営 (出前授業, 卒業アルバム作成, 卒論報告会, ゼミ旅行など) に主体性と協調性をもって取り組むことができるか. 3. ミクロ経済学的なアプローチによる分析を含む卒業論文に挑戦する意欲があるか.  ・授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 ガイダンス 第2回 パソコン実習 (ワードによる数式入力とエクセルによる関数グラフの表示) 第3回～15回 ゼミ生による発表と議論 第16回 ガイダンス 第17回～30回 ゼミ生による発表と議論 報告担当の回では, 問題解説, 解答, そして+アルファを含むレジュメを十分な時間をかけて用意します. さらにゼミでの質疑・議論を踏まえて, 自分の問題作りと解答づくりを行います. 報告担当でない回でもテキストを予習して疑問点や問題作りの手がかりを用意します. なお, 出前授業は授業時間外も使って準備することになります.			

教科書・参考書等

【教科書】武隈慎一（2017）『演習ミクロ経済学 第2版』新世社.

【参考書】

- ・武隈慎一（2016）『新版 ミクロ経済学』新世社.
- ・金森久雄・荒憲治朗・森口新司編（2013）『有斐閣 経済辞典 第5版』有斐閣.
- ・山崎昭（2010）『ケーススタディ ミクロ経済学』日本評論社.

オフィスアワー

木曜日4時限目（予定）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・平成31年度個別演習選考基準：演習（星野）の履修者はその履修状況によります。それ以外の者は演習（星野）の選考基準に従います。
- ・平成31年度個別演習単位認定方法：参加態度，発表内容，提出課題を総合評価して認定します。無断欠席は厳禁です。場合によっては単位を認定しません。
- ・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針：字数は原則として2万字以上とします。作成要領の詳細は個別演習の中で説明します。単位認定はテーマに関わる先行研究や理論を踏まえているか，展開は論理的か，論文としての形式が整っているかなどの観点から判断します。なお1年間を通した作成プロセスにおいては途中報告を行い，教員の指導を受けること。指導を受けずに提出された卒業論文は単位を認定しません。

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 313719) 演習 (長山) Seminar 規範理論[Normative Theory]	科目区分 必修科目	時間割 前期金5/後期金5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応20
	授業形態 Ex	単位数4	
担当教員名 長山 貴之	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業では、規範理論に関する研究を指導する。 タバコ会社が公的医療保険に負担を掛けていると非難された。タバコ会社は反論した。確かに、タバコは肺癌を引き起こし、公的医療保険の給付を増大させている。しかし、タバコは肺癌を引き起こし、寿命を縮めるため、公的年金の給付を減少させている。そのため、社会保険全体では負担を掛けていない。あなたはタバコ会社の主張を支持しますか。			
<b>授業の目的</b> 功利主義、義務論、徳倫理学の考え方を理解する (DPの「知識・理解」に対応) と共に、それらの理論が抱える課題を探求できるようになる (DPの「問題解決・課題探求能力に対応」)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 功利主義の長所と短所を説明できる。 (2) 義務論の長所と短所を説明できる。 (3) 徳倫理学の長所と短所を説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 報告と討議の内容によって評価する。報告と討議では論理性が重視される。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【選考基準】</b> 希望者が定員を超える場合は、成績(GPA)によって選考する。選考の際には、GPAの記載された成績表を持参すること。 <b>【授業方法】</b> 教科書を輪読する。報告と討議が授業の中心である。 <b>【前期の授業計画】</b> (1) イントロダクション (2) 動物実験 (3) ギャンブル (4) ドラッグ (5) 安全性 (6) 犯罪と刑罰 (7) 健康 (8) 障碍 (9) 自由市場 (10) 行列に割り込む (11) インセンティブ (12) いかにして市場は道徳を締め出すか (13) 生と死を扱う市場 (14) 命名権 (15) まとめ <b>【後期の授業計画】</b> 受講者の希望に応じて教科書を選び、輪読する。 <b>【自学自習】</b> 輪読する箇所は精読しておかなければならない。			
<b>教科書・参考書等</b> <b>【教科書】</b> ジョナサン・ウルフ[著]/大澤律・原田健二朗[訳]『『正しい政策』がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房，2016年。 マイケル・サンデル[著]/鬼澤忍[訳]『それをお金で買いますか：市場主義の限界』早川書房，2012年。			
<b>オフィスアワー</b> 月曜日 3時限目。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> <b>【平成31年度の個別演習選考基準】</b> 演習の成績によって選考する。評価がB以上なら無条件で受け入れる。 <b>【平成31年度の個別演習単位認定方法】</b> 報告と討議の内容によって評価する。報告と討議では論理性が重視される。 <b>【平成31年度の卒業論文作成要領と卒業論文単位認定方針】</b> 原則として2万字以上(図表を含む)。論文の内容によって評価する。論文では論理性だけでなく独自性も重視される。			

ナンバリングコード B4ECN-bcdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313720) 演習 (藤原) Seminar 英語で学ぶ金融論・金融政策	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目	金融論Ⅰ・Ⅱ、金融政策Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> この演習では、『The Economist』というイギリスで発行されている世界各国の政治・経済・社会を取り扱った英語の週刊誌を教材として取り扱う。この中から受講生は、金融論や金融政策で学ぶ内容と関連のある記事の中から自分の興味が湧くものをいくつか選ぶ。それは日本に関する記事でもいいし、日本以外の国・地域の記事でもかまわない。それを受講生全員で和訳しながら輪読していく。この作業を通して、受講生は英語の読解力を養いながら、世界の金融情勢に通じていこう。そして、その中から、この演習のもう一つの柱である「大学生による高校生向け授業」のテーマをゼミで1つ選んでもらう。そしてその選んだテーマに関して、『The Economist』や日本語の文献を探し、それをゼミ生全員で学んで、高校生向け授業の準備を行ってもらおう。そしてそれと並行して、自分が卒業論文として取り組みたい興味のある金融の分野を見つけ、独力でそれに関係する『The Economist』の記事を読んだりして、知識を蓄えておく。			
<b>授業の目的</b> 経済に興味を持ってもらうために、この演習では「時事英語を読む」ことを1つのきっかけにする。特に、経済の中でも「金融論」や「金融政策」に関するテーマを選んでもらうことで、これらの授業で学んだことを別の角度から学んでもらう。さらに、この作業を通じて、日本以外の世界各国の経済事情に触れることで、国際的な視野を育ててもらおう。また世界から日本経済がどのように見られているかを知ってもらう。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時事英語を読めるようになる。</li> <li>・世界の金融事情に詳しくなる。</li> <li>・世界の中の日本経済の位置づけを知る。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席25%、授業の予習25%、授業中の態度25%、課題25%で評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・選考基準</li> </ul> <p>①すべての科目の単位修得状況 ②面接 の二つで判断する。</p> <p>(注) 金融論や金融政策に関連する記事を集めた「Economist和訳集」を藤原研究室のドアの箱に3月30日(金)12時に入れておくので、この演習に興味がある学生は4月3日(火)までにそれを1部ずつ持ち帰って、この演習で扱う教材や英語のレベルを確認しておくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画並びに授業及び学習の方法</li> </ul> <p>この演習では、基本的な下で説明するように『The Economist』を順番に輪読する作業を行う。ただし、前期から夏休みにかけて、演習の時間以外で時間を取って、4年生と合同で「大学生による高校生向け授業」の準備をしてもらう。2018年のテーマは「金融政策」に関することであり、4年生が中心となって準備し、3年生がそれをサポートする。そして3年生が2019年に4年生になったときには、自分たちが興味のあるテーマを選んで、3年生とともに準備する。</p> <p>①1人目が『The Economist』の記事の中から自分の好きな国の金融論や金融政策に関連する記事を選ぶ。 ②①で選んだ記事をメンバー全員分コピーして、各メンバーの担当箇所にアンダーラインを引き、配布する。 ③各メンバーは②の自分の担当箇所を事前に和訳しておき、ゼミの時間に英語で読んでから和訳した日本語を読み上げる。教員やその他のメンバーは、その内容に対して、英語の文法や金融論・金融政策の視点から補足することがあればコメントを行う。 ④1人目の記事について①～③の作業が終わったら、2人目の記事について同じことを繰り返す。以下受講生全員分を行う。受講生が少ない場合は、二回り目、三回り目に入る。 ⑤学期末に自分の選んだ記事を全訳したレポートを教員に提出し、教員はそれを添削する。 ⑥教員は⑤を「レポート集」としてまとめ受講生に配布する。 (将来的には、レポート集の中から適当なものを選んで、金融論Ⅰ・Ⅱなどで副教材として用いる予定である。)</p>			

教科書・参考書等

『The Economist』各号（香川大学の経済研究所や県立図書館に配架されている）  
電子辞書、高校時の英語の参考書など。

オフィスアワー

事前にメールでアポを取ればいつでも応じます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

英語を読むことや英文の構造や文法が好きな人がこの演習には向いています。最初は金融に興味がなくとも、『The Economist』の英語自体がリズムよく書かれているので、教員の指導のもとでメンバーと一緒に輪読を行っているうちに、自然に金融の知識が身に付きます。

・平成31年度個別演習選考基準  
演習での取り組み状況によって評価する。

・平成31年度個別演習単位認定方法  
出席50%、授業への取り組み態度50%で評価する。

・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針  
テーマは原則として演習で学んだ内容に関係したものを選ぶこと。もしそれ以外のテーマを選ぶ場合は、その理由を指導教員に説明すること。字数は20000字以上である。

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 313723) 演習 (天谷) Seminar ミクロ経済学・ゲーム理論とその応用	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用ミクロ経済学	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用ミクロ経済学	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> ミクロ経済学およびゲーム理論の手法を習得し、それを用いて現実の経済・社会問題を分析できる力をつけることを目指します。 人間の行動原理と、人々の間の相互作用や駆け引きについて考察するのが「ミクロ経済学・ゲーム理論」という学問です。従って、ミクロ・ゲームの考え方を身につけることで、市場取引や経済政策といった標準的な経済学の問題はもとより、経営戦略・組織・交渉・制度設計・外交戦略など、様々な社会の事象への理解を深めることができます。 ミクロ・ゲームの思考法を習得することで、複雑な社会の問題の背後にある本質を自分の頭で紐解いて理解する快感を得るとともに、自分が社会で生きて行く上での大事な指針を手にすることができるでしょう。 演習では、参加者の希望も踏まえて具体的なテーマを選択し、テキスト講読、問題演習、教員や学生が提起する問題のディスカッション、グループや個人による研究を行います。これにより、知識の習得に加えて、研究のスキルやセンスを磨いて行きます。			
<b>授業の目的</b> 経済主体が相互依存関係下でいかなる意思決定を行うか、また市場においていかなる資源配分が実現されるか、ミクロ経済学とゲーム理論の観点から理解するとともに、自ら現実の経済問題を発見し、ミクロ経済学とゲーム理論の手法を用いて分析できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミクロ経済学とゲーム理論の基礎概念を理解し、それらをどのような経済問題の分析に用いることができるのか説明できる。</li> <li>・ 現実の経済問題を自らの力で発見し、ミクロ経済学とゲーム理論の手法を用いた簡単なモデルを作って分析し、説明することができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席、ゼミでの報告・発言、課題レポート、学年末に提出のゼミ論文（最終稿だけでなく、どのようなプロセスで作成したかも含む）を総合的に評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ・ 選考基準  以下の観点から選考を行う。 1. ミクロ経済学の基礎を習得しているか（もしくはこれからしっかり学習する意思があるか） 2. 経済学・現実の経済問題に強い興味を持っているか 3. 論理的・数学的に物事をじっくり考える意欲及び能力があるか 4. 受身の姿勢ではなく、主体性を持ってゼミでの勉学に取り組む意欲があるか 5. 報告準備を責任を持ってする、積極的に発言するなど、「楽しく緊張感のあるゼミ」づくりに貢献できるか 6. 研究したいテーマが教員の指導能力に適合するか  エッセイ（2000字程度）と成績表（コピー可）を提出すること。エッセイの内容は何でも良い（例：このゼミの志望理由、関心のある経済問題など）が、上記の選考基準を念頭に、自己アピールすること。提出物と面接により選考を行う。  提出物の期限は選考（面接）日である。詳しい提出要領は研究室まわりの際に指示する。			
・ 授業計画並びに授業及び学習の方法  年間の演習のうち、おおよそ6割をテキストの講読、2割を研究方法のトレーニングおよび学生による研究発表とする。残り2割は履修者と相談の上、上級の文献講読、プロジェクト研究等にあてる。 発表担当でない回でも、テキストを精読して予習をし、自分の考え、疑問点などを整理したうえで出席することが求められる。また、上記のゼミ論文、卒業論文以外にも、学習内容を確認するためのレポートを適宜課すことがある。 ゼミは、グループでの勉強の場である。自分自身が学習意欲を持つのはもちろんのこと、他のメンバーの勉強にも協力・貢献する姿勢が求められる。			

教科書・参考書等

参加者と相談の上決定する。以下は候補のいくつかである。

1. 丸山雅祥『経営の経済学』（第3版）有斐閣、2017年、3000円＋税
2. 長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学・基礎と応用』（第2版）日本評論社、2013年、3000円＋税
3. 坂井豊貴『マーケットデザイン入門』ミネルヴァ書房、2010年、3000円＋税
4. ギルボア『意思決定理論入門』NTT出版、2012年、2800円＋税

オフィスアワー

月曜4時限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・平成31年度個別演習選考基準  
本演習修了者については、ゼミ活動に貢献し、卒業論文作成に積極的に取り組む意欲が認められれば受け入れる。  
他演習修了者については、上記演習選考基準に準ずる。
- ・平成31年度個別演習単位認定方法  
上記演習単位認定方法と同様。ただし、「ゼミ論文」ではなく「卒業論文」。
- ・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針  
経済理論の手法を用いて、自分の設定したテーマについて分析を行い、論文にする。単位認定に当たっては、独創的な研究がなされているかを重視する。既存の文献等を調べてまとめただけのものは単位認定しない。

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード：313724) 演習 (持田) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 持田 めぐみ	関連授業科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用マクロ経済学	
	履修推奨科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用マクロ経済学	
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業では、「教育と経済学」についてのテキストを輪読しながら知識を身につけ、理解を深めていきます。適宜、マクロ経済学の復習も行います。  受講生の希望があれば、テキスト報告以外に就職活動に備えてのグループディスカッションや、各自が関心を持った新聞記事のプレゼンなども実施します。  授業は3、4年生合同のゼミナール形式で行う予定です。毎回、授業の最初に報告担当のグループがテキスト+αの内容について調べて発表し、その後、その日の報告内容に沿って参加者全員で議論します。また同時に、報告者の発表内容についてグループワークで討議し、受講生同士が互いに教え合うことでプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上をはかっていきます。前期から後期前半くらいまではテキストの内容全般について広く学び、後期の後半以降、受講生の興味・関心分野を徐々に絞って学習し、個別演習への道筋を形成していく予定です。			
<b>授業の目的</b> 「教育と経済学」をテーマに、テキストを輪読し、議論しあうことで現代社会や経済学に対する理解を深めると同時に、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
○ テキストの内容を正確に読み取り、プレゼンテーションとして、他者にわかりやすく伝えることができる。 ○ 人によって意見がわかれる可能性のあるポイントを発見し、複数の視点からの対立する意見・考え方を自ら勘案して、述べることができる。 ○ 現代社会の諸問題について、経済学の知識に基づいた客観的解釈ができ、それをわかりやすく他者に伝えることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> フィールドワーク、課題レポートを含む授業全般への取り組み態度を見て判断します。卒業生も含めての卒論報告会を年に2回、土曜日を使って実施しています。事前に受講生全員の日程を調整して、開催日を決めます。この会への出席は、単位取得のための必要条件です。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 『選考基準』 この「演習」への参加意欲があり、下記の条件を満たす人を募集します。 ・他の受講生と協力して、発表準備のできる人 ・他の受講生の発言・意見を尊重しながら、自分の意見についてもしっかりと発言できる人 or できるようになりたいと思っている人 ・遅刻・無断欠席をせず、課外活動を含めたゼミ活動全般への積極的参加など、スムーズな「演習」運営に協力&貢献できる人  選考は面談内容に加え、下記の提出物を参考に決定します。 ◎A4レポート 2枚程度 テーマ、締め切りについては、研究室回りの時に指示します。(研究室回りを欠席した人も選考前に提出が必要です) ◎成績表 (最新のもので、2017年度までの取得総単位数が下段に掲載されているもの)  『授業計画並びに授業及び学習の方法』 1. 授業のガイダンス 2～13. テキスト報告 14～15. 前期のまとめ 16. 後期のガイダンス 17～26. テキスト報告 27～28. 後期のまとめ 29～30. 卒論テーマ報告会			
受講生の状況等に応じて、上記の計画が変化することもあります。			

教科書・参考書等

初回の授業で決定します。

オフィスアワー

初回の授業でお知らせします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

運営方針の詳細は研究室回りの際に説明しますので、履修を希望する人は出席して下さい。

平成31年度個別演習選考基準

「演習」の履修状況を見て判断します

平成31年度個別演習単位認定方法

「演習」に準じます

平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

授業中に指示します

ナンバリングコード B4ECN-cbaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 313725) 演習(宮崎) Seminar 人口経済学 (Population Economics)	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 宮崎 浩一	関連授業科目	ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、社会政策A・B、福祉経済論I・II	
	履修推奨科目	ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、社会政策A・B、福祉経済論I・II	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
授業の概要 人口経済学 (Population Economics) について共通のテキストを使って全員で学んでいく予定です。「歴史上、人口はどのように推移してきたのか?」「なぜ近代では人口は減少しているのか?」「人口減少がもたらす社会への影響が何か?」「人口減少に対して政府ができることは何か?」といった疑問について経済理論やデータを利用して多方面から学びます。毎週の講義は、担当の学生による報告とそれに関する議論で構成される予定です。また、報告の仕方や論文の書き方などに関する講義も適宜行う予定です。			
授業の目的 日本に限らず、先進国では人口は減少傾向にあります。この講義を通して、「なぜ人口は先進国で減少しているのか?」という疑問に対する答えを見つけるために、それに必要な経済理論の修得やデータの使用方法などを学びます (DPの「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」)。そして、社会が直面している問題に対して経済学ができることを全員で検討し、解決策を提案します (DPの「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」)。また、発表の仕方や文章の書き方の技術の向上を図り、次年度の卒業論文の作成に必要な発表能力・文章作成能力を鍛えます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国の人口が歴史的にどのように推移してきたか説明することができるようになる。</li> <li>・先進国の人口減少がどのような原因によると考えられているか説明することができるようになる。</li> <li>・人口減少という問題に対してどのような解決策が考えられるか、経済学の考え方を使って提案できるようになる。</li> <li>・限られた時間の中で適切に情報の取捨選択ができ、わかりやすく他者に伝えることができるようになる。</li> <li>・建設的な議論ができるようになる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席、演習での発表や議論、演習運営への貢献、ゼミ論文を総合的に判断して成績をつけます。</li> <li>・ゼミ論文では、卒業論文で扱いたいテーマ、分析手法、分析結果の予想などをまとめてもらいます。つまり、卒業論文執筆のためのプロポーザルということです。</li> <li>・ただし、ゼミ論文でのテーマで必ず卒業論文を書かなければならないというわけではありません。テーマの変更は研究をやる上で起こりうることでありますから、大きな問題ではありません。</li> </ul>			
授業計画並びに授業及び学習の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・選考基準</li> </ul> 提出された書類をもとに面接を行って履修者を決定する予定です。提出書類は (1) 成績表 (コピー可) (2) 「自己紹介」「なぜこの演習を選んだのか?」「将来、何に関して研究したいのか?」についてまとめられたスライド (このスライドを使って面接のときにプレゼンとしてもらいます) です。  提出期限: 4月2日 (月) 23時59分まで。 提出方法: e-mailで私まで送ること。 ※変更があれば、連絡します。  その他、このゼミでは以下のような人を求めています。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 経済学をきちんと理解して、現実に起こっている現象を論理的に説明できるようになりたい人。</li> <li>(2) 他人のことを考えて協力し合える人。</li> <li>(3) 難しい問題も根気よく考えられる人。努力をすることができる人。</li> <li>(4) ゼミ運営を盛り上げてくれる人。</li> <li>(5) 約束を守れる人。</li> <li>(6) 遅刻や無断欠席をしない人。</li> </ol>			

・授業計画並びに授業及び学習の方法

毎回の講義の冒頭で、何人かの人にその週に興味を引いたニュースについて発表してもらいます。これを行う理由は

- (1) 現実社会で何が起きているのか知ってもらいたい。
- (2) ニュースに触れる習慣をつけてもらいたい
- (3) 卒業研究の題材探しを兼ねている
- (4) 人前で話すことに慣れてもらいたい

からです。詳細については第1回の講義の時にでも説明します。以下に講義計画を挙げます。なお、受講者人数や進行状況により、一部内容を変更する場合があります。

第1回：ガイダンス (1) (自己紹介、担当決めなど)

第2回：ガイダンス (2) (発表の仕方、レジュメの作成について)

第3～15回：ゼミ生による発表と議論

第16回：ガイダンス

第17～30回：学生による発表と議論

#### 【自学自習に関するアドバイス】

・報告者は報告の際、スライドやレジュメを作成してもらいます。効果的な報告の方法を（ガイダンスでも教えますが）自分なりに考えていろいろ試してみてください。効果的な報告の仕方は一つだけではありません。

・報告者は他の受講生の質問に（できるだけ）答えられるよう、テキストを熟読することが求められます。テキストを読む際に「本文で使用されている言葉の意味を説明できるか？」や「主張の背後にあるロジックは何か？」などに気を配って読むとよいでしょう。そして、少しでも疑問のある箇所は事前に調べておきましょう。

・報告者以外の人も必ずテキストを読んで来てください。テキストを読む際のアドバイスは報告者のケースと同じです。

#### 教科書・参考書等

現時点（2018年1月18日時点）では、以下の本をテキストの候補として考えています。

- ・山重慎二「家族と社会の経済分析」東京大学出版会、3,800円＋税
- ・山重慎二、加藤久和、小黒一正「人口動態と政策」日本評論社、3,800円＋税

です。決定次第、連絡します。

#### オフィスアワー

毎週木曜日2時間目と3時間目に、南2号館3階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールでアポを取ってください。

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・平成31年度個別演習選考基準

本演習履修者は、演習内でのパフォーマンス等を見て決定します。それ以外の人は上記選考基準に準じます。

・平成31年度個別演習単位認定方法

演習内でのパフォーマンス、研究への取り組み方を見て判断します。

・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

テーマに関しては制限はありませんが、分析には経済学的手法を使ってください。論文の中に研究テーマに関して何か新たな知見が入っているかどうかで単位認定をしたいと考えています。

・その他

- ・遅刻・無断欠席は厳禁です。
- ・講義中の携帯電話やスマホの使用は禁止です。
- ・終了が5限を超えるときがありますので、5限後すぐに予定を入れれないこと。
- ・1年のうちに数回（卒論報告会やゼミ論文中間報告会など）は4限の個別演習から受けてもらうことがあります。
- ・他大学との交流（インゼミ）も予定しています。
- ・ゼミに関する質問は研究室回り前でも受け付けますので、気軽にコンタクトを取ってください。

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323736) 演習 (藤村) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 藤村 和宏	関連授業科目	流通システム論A、流通システム論B	
	履修推奨科目	マーケティング論A、マーケティング論B	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 高校までの授業は、答えのある問題が与えられ、その答えを見つけ出す知識・方法の習得を中心に行われるが、大学の講義は、答えのない、解決すべき問題を自ら発見し、その答えを自ら生み出す能力の習得を中心に行われるべきであると考えている。そのため本演習では、マーケティングに関する理論的・実証的研究を通じて、自ら問題を発見し、理論的に考察することで仮説を構築し、量的あるいは質的調査によって検証する能力を習得する。 具体的には、テキストを輪読し、マーケティング研究に必要な基礎知識を習得する。さらに、マーケティングの学習においては、自ら経験し五感で感じることで、そこから問題を発見することが重要であるので、企業見学旅行あるいは異文化体験のための海外旅行を行う。 また、夏休み前に関心のある研究テーマによってグループを作り、グループごとに理論的・実証的研究を行なう。研究成果については、12月あるいは1月に行う合宿で発表し、討議を行なう。さらに、4年生の個別演習にも出席し、4年生の卒論研究発表およびそれらに関する討議に参加することで、仮説構築やその仮説検証のための調査票作成、多変量解析ソフトを用いた仮説検証方法などを習得する。			
<b>授業の目的</b> マーケティングに関する理論的・実証的研究を通じて、自ら問題を発見し、理論的に考察することで仮説を構築し、量的あるいは質的調査によって検証する能力を習得すること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. マーケティング問題に関心を持つことができる。 2. 新聞や専門誌のマーケティング戦略に関する記事を理解・解説できる。 3. 仮説を構築し、検証するための技法を習得できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 演習単位の認定においては、出席状況 (10%)、レジュメによる報告内容 (30%)、討議内容 (30%)、およびグループ研究活動とその発表内容 (30%) を考慮する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>&lt;選考基準&gt;</b> 演習選考基準は以下の3点である。 (1) マーケティング、流通、消費者行動などに関心のある人 (2) 演習での活動全般に対して、積極性と協調性を有する人 (3) アルバイトやサークル活動よりもゼミ活動を優先できる人  <b>&lt;授業計画並びに授業及び学習の方法&gt;</b> 各回とも担当者が教科書の担当章に関するレジュメを作成・報告し、それに基づき討議を行なう。また、前期の早い段階で研究グループを作って共同研究を行い、後期からは毎回1グループがグループ研究の中間報告を行い、討議を行う。  第1回                    ガイダンス 第2回～15回          輪読によってマーケティングに関する理論の修得 第16回～30回        輪読によってマーケティングに関する理論の修得 + グループ研究発表  また、マーケティング研究においては、マーケティングが実際に行われている現場やマーケティング現象を自ら体験し考える必要があるため、国内あるいは海外の企業や商業施設のなどの視察・調査を行なう。  <b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 第1回～30回    各回の文献を読むとともに、重要な概念や理論、関連ケースを調べる。 また、研究グループごとに理論的・実証的に研究を行う。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は学生と相談して決める。 また、参考書は随時指示する。			
<b>オフィスアワー</b> 月曜日：10時～12時 19時～21時			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

<平成31年度個別演習選考基準>

個別演習選考基準の以下の4点である。

- (1) 演習での報告および討議内容
- (2) 卒業論文のテーマと作成意欲
- (3) 演習およびコンパ等への参加状況
- (4) 演習でのグループ研究活動の状況と発表内容

<平成31年度個別演習単位認定方法>

個別演習単位の認定は、出席状況(10%)、レジュメによる報告内容(20%)、卒業論文研究活動および論文(50%)、討議内容(20%)により総合的に判断する。

<平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針>

卒業論文の作成においては、学生らしい視点でマーケティング、流通、消費者行動などにかかわる問題を考察しなければならない。なお、研究テーマについて理論的および実証的に考察するとともに、以下の条件の中の2つ以上を満たしていなければならない。

1. 外国語文献を用いる。
2. 質的あるいは量的調査を実施する。
3. 多変量解析ソフト(SPSS)を用いて分析する。

書式及び分量は、以下の要件を満たしていなければならない。

1. 分量は20,000字以上で、A4判上質紙にワードプロセッサで書くこと。
2. 表紙、目次、参考文献、頁番号(表紙および目次以外の頁に通し番号で)は必ずつけること。

単位認定は研究内容の独創性(30%)と考察内容(70%)に基づいて行う。

ナンバリングコード B4BSN-bcxE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323747) 演習 (井上善) Seminar 財務諸表監査に関する研究	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目 論	簿記入門 会計学総論	株式会社会計 監査
	履修推奨科目 論	簿記入門 会計学総論	株式会社会計 監査
学習時間 90分×30回+自学自習			
授業の概要 財務諸表監査に関する定評のある書物の輪読を通して財務諸表監査における基本的な概念と方法論を理解する。併せて財務諸表監査が今日の経済社会で果たす役割について理解する。			
授業の目的 財務諸表監査の基本的な概念と方法論を理解する (知識・理解)。 財務諸表監査が今日の経済社会で果たす役割について理解する。(知識・理解, 問題解決・課題探求能力)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
財務諸表監査の基本的な概念と方法論を理解できる (知識・理解)。 財務諸表監査が今日の経済社会で果たす役割について理解できる (知識・理解, 問題解決・課題探求能力)。			
成績評価の方法と基準 演習における報告内容・討論への参加状況, レポート等を総合的に勘案して成績を評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
演習選考の基準  財務諸表監査について強い関心があること。本を読むことが好きであること。  第1回 ガイダンス 第2回～第4回 財務諸表監査の基礎概念 第5回～第7回 金融商品取引法監査 第8回～第10回 会社法監査制度 第11回～第13回 監査基準 第14回～第15回 監査人 第16回～第17回 リスク・アプローチと監査上の重要性 第18回～第19回 内部統制 第20回～第21回 監査計画 第22回～第25回 監査手続 第26回～第29回 監査結果の報告 第30回 総括  上記の授業計画については、授業の進捗状況等により変更する場合がある。 授業の各回について、事前に教科書の内容をよく読みこんでおくこと。また、授業終了後には、自宅にて教科書の内容を復習しておくこと。			
教科書・参考書等 長吉眞一『監査基準論 (第3版)』中央経済社, 2014年, 5,600円 (購入必須)。			
オフィスアワー 演習終了時に受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席厳禁。指定された教科書の熟読と討論への積極的参加が望まれる。演習指導が厳しいものとなることについてあらかじめ覚悟されたい。 ・平成31年度個別演習選考基準 演習における受講態度及レポートの内容による。  ・平成31年度個別演習単位認定方法 日常の受講態度及び卒業論文の内容による。  ・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 卒業論文の作成時に詳細について指示するが、学部の卒業論文として適切な水準の量と質が求められる。			

ナンバリングコード B4BSN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323750) 演習 (朴鏡) Seminar 管理会計の理論と実践	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目	会計学関連の授業科目	
	履修推奨科目	経営学関連の授業科目	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
授業の概要 この授業では、管理会計の理論と実践に関する研究の指導を行う。 前期では、管理会計における基礎的な諸概念や諸技法などについて学ぶ。 後期では、各自が関心をもったトピックに関連する文献をできるだけ多く読んでもらい、次に続く卒業論文作成のための基礎能力を身につけるよう指導を行う。			
授業の目的 管理会計の理論と実践に関する基礎知識を身につける(DPの「知識・理解」に対応)とともに、経営意思決定、原価管理、業績評価等の諸問題について管理会計情報を用いて分析できるようになる(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経営管理プロセスにおける管理会計の役割を説明できる。 2. 管理会計情報を用いて代替案間の優劣を評価できる。 3. 管理会計情報が人や組織の意思決定に及ぼす影響について説明できる。			
成績評価の方法と基準 出席状況、討論への参加度、チームワーク、報告内容、レポート、ゼミ活動への参加状況などを総合的に評価して決定する。なお、無断欠席3回以上の場合は単位を認定しない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・選考基準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人と組織のマネジメントに興味を持っているかどうか</li> <li>2. 管理会計及びコストマネジメントに関する基礎知識があるかどうか</li> <li>3. 2年次までの単位取得状況と成績(面接時には成績表を必ず持参すること)</li> </ol> </li> <li>・授業計画並びに授業及び学習の方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 オリエンテーション</li> <li>第2回～第15回 管理会計テキストの輪読・討論</li> <li>第16回～26回 管理会計トピックに関する文献研究(個人による報告)</li> <li>第27回～30回 事例研究(グループによる発表・討論)</li> </ol> </li> </ul>			
教科書・参考書等 テキストと参考書は初回の授業で紹介する。			
オフィスアワー 月曜日13時～14時の間、朴研究室において随時、質問・相談などに応じる。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度個別演習選考基準 演習の成績による。</li> <li>・平成31年度個別演習単位認定方法 出席状況、ゼミ活動への参加度、卒業論文への取り組み、報告内容などを総合的に評価して決定する。なお、無断欠席3回以上の場合は単位を認定しない。</li> <li>・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 本文20,000字以上で、論理性、新規性を重視して評価する。その他、作成要領については個別演習の中で別途指示する</li> </ul>			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 323733) 演習 (安井) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目	リスクと保険, 保険システム論等	
	履修推奨科目	リスクと保険, 保険システム論	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
授業の概要 演習においては, 保険に関するテキストを輪読することで, 保険の基礎知識の取得をめざす。 個別演習においては, 演習における研究を基礎にして, 各自が選定したテーマについて報告・討論を行い, 卒業論文を作成する。  個別演習においては, 卒業論文の作成が中心となる。毎回, 担当者に卒業論文の中間報告をしてもらう。さらに担当者の報告に対して全員で討論を行う。			
授業の目的 この演習の目的は, 卒業論文に必要となる専門分野の知識および基本的な文章作成能力を身につけることである。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
本演習のテーマに関するレジュメないしレポートを書くことができる。 本演習のテーマに関するプレゼンテーションができる。 本演習のテーマに関する討論ができる。			
成績評価の方法と基準 報告, 授業への参加状況, レポートを総合して評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・選考基準 次の点を考慮して選考する。 ゼミナールでの研究に意欲的に取り組むことができるか。 ゼミナールの活動全般に積極的に参加できるか。 協調性があるか。</li> <li>・授業計画並びに授業及び学習の方法  前期はテキストの輪読を行う。毎回決められた報告者が報告し, 全員で討議を行う。もちろん報告者はレジュメを作成しておかなければならない。なお, ゼミのテーマに関連する簡単な英文を読んでもらう。 後期は輪読と並行して, 各自が選定したテーマについても報告してもらう。</li> <li>・自学自習について 毎回, 何らかの課題があるので, 熱心に取り組むこと,</li> </ul>			
教科書・参考書等 最初の講義時に指示する。 適宜, 指示する。			
オフィスアワー 現段階では, 演習開講日の3時限とする。 参加できない演習生がいる場合には, 全員参加できる日時に変更する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度個別演習選考基準 演習における研究活動を考慮して, 研究意欲の高い学生を受け入れる。</li> <li>・平成31年度個別演習単位認定方法 報告, 授業への参加状況, レポート, 卒業論文を総合して評価する。</li> <li>・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針</li> </ul> 卒業論文は20,000字以上とする。詳細については, 個別演習において説明する。  論理展開, 説得力, 独創性などの観点から総合的に評価する。			

ナンバリングコード B4BSN-cadE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323755) 演習 (古川) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cadE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目		
	履修推奨科目 環境システム論、商品システム論、資源エネルギー論、商品実験		
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 「商品」・「環境」・「地域活性化」について総合的な研究を行います。  商品：商品学の視点から見た商品の適商性に関する研究 環境：商品学の視点から見た循環型社会に関する研究 地域活性化：商品学の視点から見た地域資源の再評価に関する研究  「商品」・「環境」・「地域活性化」のどの分野においても、フィールド調査を取り入れた研究を行います。その他、工場見学なども予定しています。			
<b>授業の目的</b> 「商品」・「環境」・「地域活性化」について、商品学の視点から、基本的な考え方を身につけることを目的とします。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①商品学の視点から見た商品の適商性について、基本的な考え方を身につける。 ②商品学の視点から見た循環型社会について、基本的な考え方を身につける。 ③商品学の視点から見た地域資源について、基本的な考え方を身につける。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席状況と取り組み姿勢、レポートにより選考します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【選考基準】</b> 研究テーマに関心があり、ゼミ活動全般に積極的に取り組む意欲と協調性のある学生を希望します。フィールド調査を取り入れた研究を行いますので、積極性を重視します。  <b>【授業計画および授業方法】</b> 担当する地域を決めて、フィールドワークを行います。フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。  担当する地域については、ゼミに配属された後に決定します。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は適宜指示します。 参考書は適宜指示します。			
<b>オフィスアワー</b> 金曜日4時限目 経済学部2号館2F古川研究室			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 学生教育研究災害傷害保険に加入していることが条件です。  <b>【平成31年度個別演習選考基準】</b> 研究テーマに関心があり、ゼミ活動全般に積極的に取り組む意欲と協調性のある学生を希望します。フィールド調査を取り入れた研究を行いますので、積極性を重視します。選考については、演習での出席状況と学習態度により選考します。  <b>【平成31年度個別演習単位認定方法】</b> 出席状況と取り組み姿勢、卒業論文により評価します。  <b>【平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】</b> 設定した各自のテーマをもとに、資料やデータを収集し、2万字以上にまとめます。その他の詳細については別途指示します。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 323757) 演習 (朴恩) Seminar 多様な会計領域について知る	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 朴 恩芝	関連授業科目	会計学総論、株式会社社会計、監査論	
	履修推奨科目	会計学関連科目	
学習時間 講義90分×30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 1-2年での学んだ会計関連授業科目での基礎を確認します。 財務会計は扱われる領域が広いことを気づかせ、社会の組織とそれを支える会計システムに関してより興味をもってもらいます。それによって、知識向上だけでなく、現実に使える身近な会計の可能性を高めます。			
<b>授業の目的</b> ここではテキストを輪読して、担当者が必要な資料を加えながら担当部分に関して報告する、プレゼンテーションの形式をとります。担当者は報告に関するすべての事前準備を行い、報告とその後の自由討論までも司会者としてリードします。もちろん、担当者以外の皆さんにも積極的な討論に加わることができるよう、事前学習が求められます。これらの過程を経て、演習参加者は専門知識の習得とともに、文章作成能力、他人への情報発信能力、さらには討論を通して課題探求と問題解決能力を向上させることができます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
財務会計を中心とした専門知識を周到することができます。 プレゼンテーションと討論を繰り返すことで、得た知識を理解し、活用するとともに、他人に適切に自分の意見を伝えるスキルが身につきます。			
成績評価の方法と基準 討論への参加、プレゼンテーションの方法やコンテンツなどの総合的評価を行います。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・選考基準 面接方式。面接では、本人の演習への意気込み、自己アピールが選考の重要な判断材料となります。会計への関心や演習活動への積極的な姿勢とともに、志望動機を具体的に説明してください。</li> <li>・授業計画並びに授業及び学習の方法 前半は基礎と専門的な理論中心のテキスト学習、後半はより時事的なものや実際の企業の情報を対象に分析を行うことにします。テキスト中心といっても、関連する資料をしっかりとチェックし、完成度の高いプレゼンテーションと討論ができるよう、演習参加者の積極的に取り組むを期待しています。</li> </ul>			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は学生との話し合いで決めます。テキストが複数になることもあります。 参考書や関連資料は必要に応じて随時指示します。			
オフィスアワー 火曜日 13-14:30			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度個別演習選考基準 3年の演習での学習態度や課題遂行能力を総合的に評価したうえで、卒論作成への意気込みをみて判断する。他の演習出身者の場合は、面接を通して、個別演習で学習目的を確認して選考する。</li> <li>・平成31年度個別演習単位認定方法 卒論に向けてのプロセスを重視する。課題の遂行結果の報告から、卒論作成にどれほどしっかり準備をしているかを評価する。</li> <li>・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 卒業論文の作成は以下のプロセスで指導する。 4月～5月 3年生の演習を通して、自分が興味を持つテーマを複数取り上げて、それに関する簡単な報告を行う。最終的なテーマは、指導教員の助言や他の学生たちとの討論のなかで決めていく。 6月～7月 テーマをひとつ絞って、そのために必要な参考文献や論文などを探し、そこからそのテーマを選んだ理由や論文の意義、目次と各章への大まかな内容を決めていく。 7月の最後の個別演習では目次が確定する。 8月～9月 (夏休み中) 論文テーマに関連する資料を徹底的に探し、後期の論文作成に備える。 10月～11月 毎回1章ずつ論文を作成・報告してもらい、個別に細かい指導を行う。次の回には修正分と新しい章を用意する。(2-3人のチームへの個別指導体制) 12月 論文を書き上げる。 1月 細かい修正作業後、完成論文を提出する。</li> </ul> これらの各プロセスにおける態度および成果をみて、総合的に判断する。			

ナンバリングコード B4BSN-bcxE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード：323764) 演習(青木) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 青木 宏之	関連授業科目	人的資源管理論A・B	
	履修推奨科目	経営組織論A、社会政策A	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業は、人的資源管理論・経営管理論を研究する。主な内容は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的資源管理・経営管理論に関する文献の輪読。</li> <li>・グループワーク。</li> <li>・地元企業へのフィールドワーク。</li> </ul>			
<b>授業の目的</b> この授業の目的は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的資源管理論・経営管理論についての文献を輪読し、討論することを通じて専門知識を深める。</li> <li>・自分の関心領域にかかわる資料収集や文献研究を行い、論文作成のための知識と技術を習得する。</li> <li>・フィールドワークを通じて、現代企業の問題を社会科学的に理解する力を習得する。</li> </ul>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この授業の到達目的は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的資源管理論・経営管理論に関する専門知識を習得する。</li> <li>・とくにその中でも自分の関心領域を定め、それに関するより深い知識を習得する。</li> <li>・現代企業の実態を分析し、その結果をプレゼンテーションできるようになる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 平常点（出席、発言、参加姿勢）50%、報告（レジメ、卒論の中間報告）50%で評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【選考基準】</b> 面接による。面接では、卒論のテーマ、基礎的知識習得の程度、コミュニケーション力を総合的に判断して選考する。			
<b>【授業計画並びに授業および学習の方法】</b> 回数は進度によって変更することがある。			
第1回 オリエンテーション：第1学期の授業にかんする説明・課題設定 第2～7回 人的資源管理に関する文献の輪読 第8回 各人のテーマ設定 第9～13回 各人のテーマに即した論文の論評 第14～15回 フィールドワーク			
第16回 オリエンテーション：第2学期の授業にかんする説明・課題設定 第17～21回 卒業論文テーマに関するプレゼンテーション 第22～28回 文献輪読または論文論評 第29～30回 グループワーク：ディベートまたはプレゼンテーション			
<b>【自学自習】</b> 上記内容のすべてについて、個人またはグループで事前・事後の準備を十分に必要がある。 長期休暇中には課題を指定する。			
<b>教科書・参考書等</b> 受講生と相談の上、指定する。			
<b>オフィスアワー</b> 木曜三時限目 事前にメールで予約すること。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ●平成31年度個別演習選考基準 演習の成績、卒業論文の計画内容によって判断する。 ●平成31年度個別演習単位認定方法 平常点（出席、発言、参加姿勢）50%、報告（レジメ、卒論の中間報告）50%で評価する。 ●平成31年度卒業論文の評価基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的資源管理・経営管理論に関する意義ある研究課題を設定している。</li> <li>・先行研究を体系的に整理し、その意義と限界を明確にしている。</li> </ul>			

ナンバリングコード B4BSN-bcdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323748) 演習 (宮脇) Seminar エンパワーメントと管理会計情報	科目区分 必修科目	時間割 前期火5/後期火5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	管理会計および経営学関連の授業科目	
	履修推奨科目	会計学・経営学関連の授業科目	
学習時間 演習90分×30回+自学自習+α			
授業の概要 このゼミナールの目標は、ゼミナール活動を通して、個人のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章作成能力）を高め、様々な「人間力」を成長させることです。社会に出て必要な力、就職活動で求められる力、そして、ゼミナールの2年間（特に3年生の1年間）で身に付けなければならない力は、全てフラクタル（自己相似）な関係にあり、無関係ではありません。みなさんには、「社会に出て生きていく」ことから逆算した準備が必要であり、そうした意識を持った上で、自分を見つめ、成長していこうとする意志と行動力、覚悟が求められています。			
授業の目的 社会と大学とゼミナールをフラクタル(自己相似)な関係として捉え、そこから必要とされる知識・技法・マナーなどを、仲間との相互作用を通して身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
個人のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章・資料作成能力）を高め、様々な「人間力」を磨くことができる。			
成績評価の方法と基準 (1)出席（原則：毎回）、参加態度、ファイナルプレゼンテーション (2)個人のコンピテンシーの向上度			
授業計画並びに授業及び学習の方法 <選考について> [選考基準] (1)向上心（研究テーマに関心があり、自己のコンピテンシーを高めたいもの） (2)Attractiveness（素直さ、誠実さ、ユニークさなど、一緒に時間を過ごしたいと思えるもの） (3)明るく積極的にゼミ活動に参加できること (4)これまでの生活態度と成績（参考） [選考方法] 面接（懇談・対話形式で行います） ※将来の就職活動時の体験学習もかねてエントリーカードを書いて提出してもらいます。 [育てたい人物像] まじめに粘り強く何事に対しても一生懸命明るく前向きに取り組む姿勢を持ち、「自律」できる人を育てたいと思っています。  [アドバイス] ※自分が成長するチャンスは、いつかや将来にあるのではなく、「今」だけにしかありません。未来は「今」の積み重ねの先にあるものです。自分の試みが自分の将来に、そして周りの人たちに影響を与えるバタフライ効果をもたらすように過ごすことは、あなたにもできます。 ※人は周りの環境に影響を受ける「(機動戦士ガンダムで言う所の) ニュータイプ」です。例えば、人は、夏に暑くなると、自然に汗をかいて体温を調節します。この現象は、人が現実世界と恒常性を保つためにフィードバック関係を築こうとして起こるものです。さらに、人は、仮想世界である映画などを見ている、手に汗握る状態となります。実は、人は現実世界だけでなく仮想世界ともフィードバック関係を築くのです。つまり、あなたが自分の将来のためにどのような環境を想定・選択するかで、成長度合いは変わります。なぜなら、人は自然にその環境とフィードバック関係を結ぶからです。したがって、社会とフラクタル（自己相似）な関係にある環境の中にいた方が望ましいのは言うまでもありません。 ※人間力は、社会に出て働き活躍することから逆算して与えられる宿題や体験などの戦術的負荷を乗り越えながら身に付けていくものです。例えば、ドラゴンボールの孫悟空のように。何より大事なことは、働く時に要求されるであろう様々な個人のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章・資料作成能力）を、実際に働く時と同じ環境（例えば、制約条件がある中で知恵を絞り、大人と交渉し、様々な人と協働して物事を実現させていくことなど）で身に付けていくことです。現実からかけ離れた仮想現実の世界とフィードバック関係を結んで身に付けたことが、就職後にどれほど役に立つかは想像がつくはずですが、簡単に言うと、サッカーを例にあげれば、試合と同じ状況設定でサッカーの練習を積み重ねれば、決してサッカーがうまくなることはないです。			

<授業計画ならびに授業および学習の方法>

1. 演習：年間を通して下記の項目を学習していきます。

(1) “Show Time”形式のプレゼンテーション能力・資料作成能力（パソコン基本技術含む）を身に付ける。

(2) グループディスカッション(1グループ4人程度)を通して議論の展開力を身に付ける（基礎）。

《専門知識》管理会計、マネジメントコントロールおよび業界分析

《教養知識》金融、世の中のしくみ、モノの原価および働く理由・意味

(3) カマタマーレ讃岐との共同プロジェクト・ボランティアに参加し、主要メンバーとして企画・折衝を行い、様々な人と協働して物事を進めていく力を身に付ける。

(その他)

・新聞記事を用いたグループディスカッションとディベート能力を身に付ける（応用）。

・「Business Game（完全版）」を用いて、経営活動の流れと会計情報の関わりを疑似体験する。

・様々な分野の会社に勤める企業人（OBや色々な業界・職種・職位の人）と意見交換し、「働く」ことを見つめる機会を持つ。

・就職活動演習（教養理解度クイズ<授業>&エントリーシートの書き方および面接訓練など<課外>）

※毎週ゼミの時間に「1週間の出来事」と題し、軽食を取りながら、全員にお話をしてもらいます。わいわいとした雰囲気の中で、お互いをよりよく知る機会になっているとともに、話すあるいは表現する練習の場ともなっています。

2. オプションとしても希望があれば、“Work Shop”では簿記を、“ELP(Effective Listening Practice)”では英語のリスニングを学習することができます。また、“ENJOG”ではウォーキングによる体力作りを行えます。

3. その他（補足）

・年4回、行事（夏突入コンパ・忘年会・追いコン・秋合宿）があり、毎回OBも来て、親睦を深めるとともに、行事の準備や運営など、物事を進める手順などを学ぶ機会ともなっています。

・4年生の夏休み（に限りませんが）には、希望者には1ヶ月ほどの短期海外留学を勧めています。学生の時にしかできない違う文化圏での生活を通して、自分を、そして日本を見つめ直すよい機会になっていると思います。

教科書・参考書等

随時指定

オフィスアワー

随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※人生には、受験勉強のような必勝法はありません。楽しく人生を過ごしたいのであれば、それなりの能力やマナー、人柄などの要素が含まれている人間力を兼ね備える必要があります。そうした人間力は、一朝一夕には身に付きません。なぜなら、時間をかけて色々なことに一生懸命に取り組み、自分が体験したことが少ないような場面に揉まれることでしか、人の器は大きくならないからです。もし、あなたたちへの優しさが「楽」な道を歩ませてあげることであればそうしますが、そうでないのなら、仮想現実の世界にいれば絶対に通ることのないじり道や坂道などから見える景色も見せてあげて、人生を楽しく生き抜いていく素地を身に付けてもらいたいと思います。時間もかかるし、うまくいかないことも多いかもしれませんが、その分、得られた財産の中身は何ものにも換え難く、見える景色や俯瞰できる景色が違ってくることで、より豊かな人生を送ることができるようになると思います。

[平成31年度個別演習選考基準]

演習の結果（成績がA以上）、基本能力、協調性および面接

[平成31年度個別演習単位認定方法]

(1)出席（原則：毎回）、参加態度、プレゼンテーションおよび研究活動

(2)卒業論文

[平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針]

☆卒業論文（20,000字以上）

(1)演習および個別演習の研究活動の成果を反映しているもの

(2)学術的な貢献があり、かつクリエイティブでオリジナリティーに溢れるもの

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 323751) 演習 (繁本) Seminar 財務会計の理論と実践	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 繁本 知宏	関連授業科目 経営財務論、金融論	簿記入門、会計学総論、株式会社会計、監査論、	
	履修推奨科目 経営財務論、金融論	簿記入門、会計学総論、株式会社会計、監査論、	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 なお、授業中のディスカッションに参加するためには、レポーターに当たっていても十分な予習が必要であることは言うまでもありません。また、適宜グループ学習を求めるほか、長期休暇中に課題を課すため、ゼミ活動に多くの時間を割く必要があります。			
授業の概要 ・本演習では、財務会計の基礎的な理論の理解と、習得した知識の活用能力の養成を目指します。すなわち、財務会計の理論と実践の両面を鍛え上げます。 ・具体的には、前期では、財務会計の概説書(テキスト)の読み込みを通じて、財務会計の理論に関する基礎知識を徹底的にインプットします。 ・それを踏まえて後期では、財務諸表利用者の視点に立ち、財務諸表その他の企業情報を用いた企業分析を通じて、前期で習得した基礎知識を具体的な事例に適用して合理的な結論を導き出す力を養成します。なお、ここでいう企業分析はあくまで会計・ファイナンスに軸足を置くものであり、商品分析やマーケティング分析などとは異なることに注意して下さい。			
授業の目的 財務会計の基礎を徹底的に理解した上で(DPの「知識・理解」)、習得した知識を課題発見・解決に応用する能力を身に付けるとともに(DPの「問題解決・課題探求能力」)、自分の考えを的確に他人に伝える力を鍛えることが(DPの「言語運用能力」)、本演習の目的です。加えて、ゼミ活動への積極的な参加を通じて、社会人になるための訓練を行います。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務会計の基礎概念や基本原理を言葉や文章で的確に説明できる。</li> <li>・会計基準の規定を言葉や文章で的確に説明できる。</li> <li>・企業の経済活動を会計基準に沿って会計的に表現できる。</li> <li>・会計の知識やその他の情報を活用して企業の経営実態を分析できる。</li> <li>・ディスカッションに積極的に参加できる。</li> <li>・社会人になるための心構えとマナーを身に付ける。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 報告の質、ディスカッションへの参加、自学自習の取組、ゼミ運営への貢献等を総合的に勘案して評価します。毎回の出席は必須条件。高い成績評価を得るためには、積極的なディスカッション参加が特に不可欠です。合理的な理由を事前に連絡しない欠席・遅刻・早退は成績評価を著しく下げ、個別演習の選考にも影響します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>1. 選考基準</p> <p>面接によって選考します。選考に当たっては次の点を重視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本ゼミを希望する理由</li> <li>・ゼミ活動全般に対する積極的意欲</li> <li>・学生生活におけるゼミ活動の優先度</li> <li>・2年次までの履修科目と成績(特に会計と経済)</li> <li>・主体性と協調性</li> </ul> <p>面接時には志望理由書(様式は自由。分量はA4半分程度)と最新の成績表を持参してください。</p> <p>なお、選考基準とは直接関係しませんが、以下のような人は本ゼミに向いているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会計専門職(公認会計士、税理士、国税専門官など)を志望している人</li> <li>・金融機関、企業の財務・経理部門、証券アナリストを志望している人</li> <li>・会計を専門的に極めたい人、会計に関連させた学際的な研究を行いたい人</li> </ul> <p>また、本ゼミは、「護送船団型」ではなく、向上心ある学生の能力を伸ばす「プルアップ型」を目指していますので、やる気に満ちた学生の参加を歓迎します。逆に、財務会計に興味がない人、会計以外の試験勉強に時間を割きたい人、勉強はあまりしたくない人、演習の単位を「効率的に」取りたい人などは、本ゼミを選択するとミスマッチが起りかねません。</p>			

## 2. 授業計画並びに授業及び学習の方法

### (1) 授業計画及び授業の方法

・前期は、指定したテキストの輪読を通じて、財務会計の基礎知識を徹底的に習得します。確かな基礎知識は学問の大前提です。それらを欠いた考察や議論は茶飲み話と大差ありません。

・レポーターとなったゼミ生は、重要な事項は詳細に、そうでない事項は簡潔にまとめたレジュメを作成して、分かりやすく報告することが求められます。その上で、ゼミ生全員でディスカッションを行います。ゼミではディスカッションへの参加が非常に重要であり、ゼミで発言しないことは白紙答案の提出と同じであることを強調しておきます。

・後期は、財務諸表その他の企業情報（有価証券報告書や決算短信、IR資料など）を用いた企業分析を行い、前期に習得した基礎知識の活用に取り組みます。ゼミ生の人数にもよりますが、後期はグループ報告が多くなる予定です。

・後期の内容はかなり実践的ですが、実践的とは「覚えることが少ない」「難しくない」「わいわい楽しい」とは異なります。むしろ実践的であるほど（実務に近いほど）深く幅広い専門知識が必要、というのが会計や金融の実務の中で得た私の実感です。したがって、「実践的な学び」のためには、多くの勉強が必要不可欠であると心得てください。

・使用するテキストは、ゼミ生の顔ぶれが決まってから決定します。今のところ、桜井久勝『財務諸表分析』をベーステキストとして使用しつつ、桜井久勝『財務会計講義』（中級レベル）、朝倉和俊他『公認会計士試験 財務会計の重点詳解』（中～上級レベル）、佐藤信彦ほか『スタンダードテキスト財務会計論II応用論点編』（上級レベル）といったやや高度な内容の書籍を1冊選んで併用する予定です。こうすることによって、理論に根差した実践の理解を目指します。

・ほぼ毎回、20～30分程度の授業時間延長を想定しています。延長戦も合理的な理由がない限り早退は認めませんので、その旨を承知した上でゼミに参加することを求めます。

・なお、懇親会やゼミ合宿その他のイベントについては、ゼミ生の自主性を尊重しますので、ゼミ生が音頭をとって進めてください。

### (2) 学習の方法

・財務会計の書籍には、財務会計全般を扱った概説書のほか、特定のテーマ（例えば金融商品会計、税効果会計など）に焦点を絞った専門書があります。特にレポーターは、概説書だけでなく報告担当分野の専門書にも目を通すことが望まれます。さらに突っ込んだ勉強をしたい人には、内外の学術論文を読むことを推奨します。このほか、実務家向けの実務書や啓蒙書も数多く出版されています。やや実践的な分野に踏み込む後期の授業では、そうした書籍も参考になるでしょう。加えて、日頃から新聞や経済雑誌に目を通し、会計問題はもちろんのこと、会計事象の背後にある企業活動全般に対し関心と問題意識を持つことが重要です。

・また、ゼミで学んだことをベースとして自学自習を積み重ね、公認会計士試験、日商簿記1級、証券アナリスト1次試験、税理士試験といった会計関連の試験にチャレンジすることもお薦めです。

教科書・参考書等

#### 【テキスト】

上記のとおり、ゼミ開始時に指示します。複数のテキストを併用する予定です。

#### 【参考書】

・日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編、『会計監査六法 Lite版』、日本公認会計士協会出版局  
・中央経済社編、『新版 会計法規集』、中央経済社  
(参考書の購入は必須ではありませんが、購入する場合はいずれの書籍も最新版を推奨します)

その他は随時紹介します。

オフィスアワー

初回授業時に指定します。ただし指定時間以外でも、事前連絡があれば学習相談に随時応じます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

演習形式の授業では、毎回の出席は当然の前提とした上で、ゼミ生の積極的かつ能動的な学習姿勢が不可欠です。授業のレベルはゼミ生全体の学習姿勢次第で決まるといっても過言ではありません。このため、ゼミ生には十分な事前準備と積極的なディスカッション参加が求められます。また、講義中の私語やスマホ等の目的外使用をはじめ、他人の勉学の権利を害する行為は厳に慎むこと。そうした行為には厳正に対処します。

### 1. 平成31年度個別演習選考基準

演習の取組状況をもとに選考します。

### 2. 平成31年度個別演習の単位認定方法

日常の取組姿勢と卒業研究の質によります。平成31年度個別演習は、卒業論文執筆へ向けて、個人研究の進捗状況を授業時間中に報告し、全員でディスカッションする形式で進めていく予定ですので、進捗報告の質や、ディスカッションへの参加状況も重要な評価要素となります。

### 3. 平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

詳細は個別演習において説明しますが、字数は20,000字以上とし、卒業論文としてふさわしい質を備えていることが必要です。具体的には、既存研究の焼き直しや文献を単に整理するだけではない独創的な課題設定、先行研究の十分な読み込み、適切なデータの利用、論理的な文章構成、十分な根拠に基づく説得力のある結論、論文にふさわしい文体などが求められます。これらの達成度をもとに単位認定を判断します。

ナンバリングコード B4BSN-bcdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード：323740) 演習 (松岡) Seminar 企業の経営革新に関する研究	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目 理論A・B	経営組織論A・B, 経営戦略論A・B, 人的資源管理	
	履修推奨科目 理論A・B, 経営統計学, 調査データ分析	経営組織論A・B, 経営戦略論A・B, 人的資源管理	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
授業の概要 企業の経営革新について、理論的・実証的な研究を行うために必要となる専門知識や調査研究手法が習得できるように指導を行う。文献の輪読に加え、チーム単位での調査研究を実施し、他大学との合同ゼミナール報告会へ参加することを通して、当該分野への知見を深める。			
授業の目的 卒業論文の作成に向けた準備段階として、専門的な知識と研究遂行や論文執筆に必要な基本的なスキルを習得する(学士課程のDP「知識・理解」に対応)。本年度のゼミでは、企業の経営革新について、組織、戦略、人材(育成と採用)の点から検討する。文献輪読や討論に加えて、チーム単位での共同研究を行い、得られた成果を他大学との合同ゼミナール報告会で報告・討論することで、学習の成果と課題を確認する(学士課程のDP「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>経営学の諸理論についての応用的な知識を述べることができる。</li> <li>チーム単位で企業の経営革新に関する調査研究(既存研究のレビュー, 調査の設計, データの収集・分析, 研究報告および報告書の執筆)を実施することができる。</li> <li>他者の研究成果に対する建設的な批評を行うことができる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 受講態度(準備状況および討議への貢献度など), 宿題, チーム研究の進捗状況により, 総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【選考基準】</p> <p>以下の3点を満たすことができる学生を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>本演習で取り扱うテーマや研究方法に関心があること</li> <li>ゼミ活動に積極的に取り組めること</li> <li>他の学生との協働作業に対して責任を持って意欲的に取り組めること</li> </ol> <p>なお、応募者多数の場合には、面接による選考を行う。</p> <p>【授業計画並びに授業及び学習の方法】</p> <p>前期：テキストおよび研究論文を輪読し、専門的な知識を習得する。また、インタビュー、アンケートなどの調査分析手法についての理解を深めていく。夏休み前にチーム分け(1チーム4～5名程度)を行い、チームごとに研究テーマを設定して、実証研究に着手する。</p> <p>後期：チーム単位での研究の進捗報告と討論を中心に進める。この共同研究の成果は、12月頃に他大学と合同で実施するゼミナール研究報告会において発表した上で、1月末をめどに報告書にまとめる。なお、共同研究の実施時には、通常の演習時以上に多くの準備時間を割くことが必要となるので留意してほしい。1月以降は、個々の卒論テーマについての研究を進める。</p> <p>&lt;おおよそのスケジュール&gt; (前期) 第1回 インTRODクシヨン 第2回～第10回 文献輪読 第11回～第15回 研究計画の作成・調査法指導</p>			

(後期)

第16回 進捗経過報告会 (4年生と合同)

第17回～25回 プロジェクト研究 (進捗報告)

第26回～30回 卒論作成に向けた指導

授業の基本的なスタイルは、報告者によるプレゼン→全体での討議→まとめと解説という流れを予定している。演習参加者は、事前に文献や資料に目を通した上で、討議に備えて自分なりに論点を整理したメモを作成することが求められる。報告担当者は、プレゼン資料を作成した上で人数分コピー・配布し、討論をリードすることが求められる。また、全員、授業終了後に授業を振り返っての事後レポートを作成・提出することが求められる。

\*演習活動の一環として、学外での調査活動等を伴うため、保険 (学研災・学研賠あるいは同等のもの) 加入をしておくことが受講の条件となる。

教科書・参考書等

開講時に候補となる教科書・論文を示し、受講生と相談の上決定する。

参考書については、適宜、紹介する。

オフィスアワー

開講時にアナウンスする。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【平成31年度個別演習選考基準】

- ・演習への取り組み状況および研究計画書により選考する。
  - ・他演習からの移籍の場合には、研究計画書および面接により選考する。
- \*アンケート調査により論文を執筆しようとする者は、調査データ分析、経営統計学のいずれかを履修済み、あるいは履修予定であること。

【平成31年度個別演習単位認定方法】

- ・卒業研究の進捗状況およびディスカッションへの貢献度に応じて単位認定する。

【平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

下記の要件を満たしている場合に卒論としての提出を許可し、その内容に応じて評価を行う。

- ・企業経営に関連した研究テーマが選択されていること
- ・既存研究を踏まえた上で書かれていること
- ・独自にデータの収集・分析を行って作成された実証研究であること
- ・研究論文作成のための様式にのっとり書かれていること
- ・分量の目安は20,000字以上

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323760) 演習 (向) Seminar 国際経営ゼミナール International Management Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 向 滄	関連授業科目	国際経営論、経営学概論、経営戦略論A、経営戦略論B、経営組織論A、経営組織論B、人的資源管理論A、人的資源管理論B、マーケティング論A、マーケティング論B、流通システム論A、流通システムB、中小企業経営論	
	履修推奨科目	調査データ分析	
学習時間 講義90分×30回+自学自習、グループワーク			
授業の概要 本演習では、企業が国境を越えてまたは国境を跨いで生産・販売などの活動を行う場合、どのような問題が発生するのか？多国籍企業がいかにか諸活動を効果的にマネジメントすることができるのか？新興国市場と企業の勃興が国際ビジネスに対してどんな影響を与えているのか？といった問いを自らの興味・関心に基づいて立て、それらについて理論的・実証的な研究を行う。 日常の演習活動に加えて、合宿や企業訪問、他大学との合同ゼミなども適宜開催する。			
授業の目的 文献講読やグループ研究を通じて、卒業論文に必要となる専門分野の知識および基本的な文章作成能力を身に付ける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>国際経営に関するレジユメないしレポートを書くことができる。</li> <li>国際ビジネス戦略とマネジメントについて問題意識を持ち、かつ適切な方法で調査・研究し、論理的な文章を書くことができる。</li> <li>国際経営に関するプレゼンテーションと討論によって、自らの主張を他人に明確に伝えることができる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 平常点と小論文の内容に基づいて評価する。 平常点は主に出席状況、授業中の発表と議論、演習での活動全般へのコミットメント、およびグループ研究への貢献度を評価の基準とする。 なお、評価比率は平常点60%、小論文40%とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>選考基準 面接によって選考する。選考の基準は主に以下の3つである。 ①国際経営に対して関心・興味を持っている人 ②演習での活動全般に対して積極的に取り組める人 ③協調性と柔軟性を有し、他人と円滑な共同作業ができる人</li> <li>授業計画並びに授業及び学習の方法 前期では、テキストや研究論文を輪読し、国際ビジネス研究に必要な専門知識を習得する。演習生が順番に指定文献についてレジユメを作り報告し、全員でディスカッションを行う。報告担当者以外も文献を精読して、その概要を纏め (A4用紙1枚程度)、意見をもって議論に参加する。 後期では、まず講座を3回設けて、教員は研究方法論、小論文の書き方および論理的思考法についてレクチャーを行う。その後、演習生はグループ研究に取り組む。研究の進捗状況と成果について中間発表してもらい、各チームに対して教員が研究指導と論文添削を行う。1月中旬をめぐりに、各チームは最終成果物として、15,000字以上の小論文を提出する。</li> </ul>			

教科書・参考書等

- ・授業ごとに資料を配布する。
- ・参考書については、適宜紹介する。

オフィスアワー

事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・平成31年度個別演習選考基準
  - ①3年生の演習から継続する場合は、特に選抜を行わない。
  - ②4年生から新規に個別演習に参加したい場合は、志望理由書、研究計画書および面接により選考する。
- ・平成31年度個別演習単位認定方法  
卒業研究の進捗状況と成果、ゼミ活動へのコミットメントと貢献により総合的に評価する。
- ・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針  
卒業論文は、以下の条件を満たさなければならない。卒業論文の完成度と面白さに応じて評価を行う。
  - ①学生らしい問題意識を出発点とした国際経営に関する研究
  - ②先行研究を踏まえた上で書かれていること
  - ③書式にのっとって書かれていること（書式については別途指示する）
  - ④論理性と独創性を持っていること
  - ⑤文字数は20,000字以上

ナンバリングコード B4BSN-abcE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 323759) 演習 (嘉本) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 嘉本 慎介	関連授業科目		
	履修推奨科目	経営財務論	
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習			
授業の概要 この演習では、証券投資や経営財務に関する問題を分析するファイナンス理論の基本的な考え方と分析手法について学習する。 ファイナンス理論に関するテキストを指定して報告箇所を受講者に割り当てるので、割り当てられた箇所の内容をまとめた資料を作成し、それについて詳しく報告してもらう形式で授業を行う。報告者以外の受講者にも発言を求め、授業前までにテキストを読むなどの予習を求め、さらに、学習した内容に関する理解を深めるため、定期的に宿題に取り組んでもらう。			
授業の目的 卒業論文に必要な専門分野の知識および基本的な文章作成能力を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
演習テーマに関するレジメないしレポートを書くことができる。 演習テーマに関するプレゼンテーションができる。 演習テーマに関する討論ができる。			
成績評価の方法と基準 試験・課題レポート・授業中の行ってもらう報告の内容 (テキストの内容の理解度・報告や説明の仕方・資料のまとめ方等)・授業への取り組み具合によって総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
選考基準 面接と成績を参考に選考を行う。			
授業計画並びに授業及び学習の方法  授業は、参加者に報告箇所を割り当てるので、割り当てられた箇所の内容をまとめた資料を作成して、授業中にそれについて報告してもらう形式で行う。報告者以外の参加者にも発言を求め、授業前までにテキストを読むなどの予習が求められる。内容については参考書に挙げた以下のテキストを参照すること。報告者以外の受講者にも発言を求め、授業前までにテキストを読むなどの予習を求め、さらに、学習した内容に関する理解を深めるため、定期的に宿題に取り組んでもらう。			
注) 授業計画は、進捗状況および受講者の理解度に応じて変更される可能性がある。			
教科書・参考書等 参考書 『現代ファイナンス理論入門 第2版』 仁科一彦 (著) 『しっかりわかるファイナンス』 渡辺茂 (著) 『コーポレートファイナンスの原理第9版』 大野薫 (訳) 『コーポレートファイナンス入門編第2版』 久保田敬一他 (訳) 『コーポレートファイナンス第10版 (上)・(下)』 藤井真理子・国枝繁樹 (訳)			
オフィスアワー 木曜日 18:00~19:30			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 平成31年度個別演習選考基準 演習において課す試験・課題レポート・報告の内容 (内容の理解度・報告や説明の仕方・資料のまとめ方等) の出来具合と授業への取り組み態度を総合的に評価して選考する。  平成31年度個別演習単位認定方法 卒業論文の進捗状況等に関する報告の内容 (内容の理解度・報告や説明の仕方・資料のまとめ方等)、卒業論文のテーマに関する理解度、卒業論文作成への自主的な取り組み具合、課題の出来具合などによって総合的に評価する。			

## 平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

### 1. 作成要領

金融市場への投資や企業の経営財務などのファイナンスに関連するテーマを受講生が各自で見つけて、そのテーマについて数学的なモデルを用いた分析、もしくはデータを用いた分析を行う内容の卒業論文を作成してもらおう。卒業論文の文字数は2万字以上とする。

### 2. 単位認定方針

卒業論文の内容（論理性、考察力、分析の妥当性、説明表現力等）によって単位を認定する。

### 注意点

演習は受講者の積極的な参加のもとで成り立つ授業である。そのため、無断欠席・遅刻・授業中の迷惑行為等には厳しく対処する。また、受講生には、自分の意思で受講を願いでて演習に参加していることを自覚することを求める。

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 323761) 演習 (趙) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 趙 命来	関連授業科目	マーケティング論A, B 流通システム論A, B	
	履修推奨科目	経営学関連科目	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 大学で学ぶことは、特に社会科学の場合は、「社会で起きている出来事を、研究の世界で言われていること（理論）と照らし合わせながら理解する力を付けること」です。理論は、「個々の現象を法則的に、統一的に説明できるように道筋を立てて組み立てられた知識の体系」です。「個々の現象」とは世の中で起きている出来事ですが、現実（「個々の現象」）は常に変化しているわけです。理論は現実を説明するためのものですから、現実がかなり変化していると、理論はいずれ当てはまらなくなります。そうすると、新たな現実に合わせて理論を作りかえなければなりません。本演習では、このような作業をマーケティングや流通の分野に焦点を当てて行います。			
<b>授業の目的</b> 本演習では、マーケティングや流通における理論を学び、そこで起きている現実を理論的に眺めて見る、あるいは理論を現実的な側面から眺めてみることを通じて、自ら問題を発見し、解決策の仮説（仮の答え）を立て、検証する作業を行います。本演習はこのようなトレーニングを通じて、マーケティングや流通の現象を深く理解することはもちろん、「問題発見能力」、「問題解決能力」、いわゆる「現実を見る目（社会で起きていることを理論と対応させながら考える力）」を養うことを、目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. マーケティングがわれわれの生活にどのようなかわりをもつか理解できるようになること。 2. 現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役に立つか理解できるようになること。 3. ある問題について論理的に考える、伝える、討論する、文章で表現できるようになること。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 出席状況、報告内容、議論における積極性、グループワークへの取り組みなどの状況に基づいて評価します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ・選考基準 積極的に学ぼうとする姿勢があるかどうか。 仲間意識を持ってグループワークに協力的に参加するかどうか。 指導教員による修学指導を受け入れるつもりがあるかどうか。  ・授業計画並びに授業及び学習の方法 前期の演習では、毎回、報告担当者がテキストの担当章についてレジュメを作成・報告し、議論をすることを通じて、マーケティングや流通に関する知識を深めます。 後期の演習では、各グループが自由にテーマを選び、研究を行うが、毎回の演習で1つのグループが報告し議論を行い、問題を深めつつ研究を進めます。			
<b>教科書・参考書等</b> プリントを配布します。			
<b>オフィスアワー</b> 随時、研究室にて受け付けます。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・平成31年度個別演習選考基準 演習での取り組み状況（演習への積極性、卒論進行状況、出席状況、ゼミ活動への参加度など）により、総合的に判断します。 ・平成31年度個別演習単位認定方法 卒論進行状況、出席状況、報告内容、議論への参加度、ゼミ活動などの状況に基づいて総合的に判断します。 ・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 図表含まず20,000字以上。マーケティングや流通にかかわるテーマを選ぶこと。インタビュー調査あるいはアンケート調査を実施すること。関連する論文や新聞・雑誌などを十分に読むこと。			

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323762) 演習 (張) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期月4/後期月4	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 張 暁紅	関連授業科目	経営史、現代企業論	
	履修推奨科目		
学習時間 授業時間90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業では、企業の歴史、企業は直面した経営上の課題にどのように対応してきたのかなど、経営史分野における専門的な知識の習得と調査研究方法を習得する。主な内容は以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営史に関する文献の輪読とディスカッション</li> <li>・グループワーク。研究テーマの設定および研究課題の実証分析</li> <li>・各自の問題意識や研究成果に基づく研究発表</li> </ul>			
<b>授業の目的</b> この授業の目的は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業およびそれを取り巻く経済環境の歴史を理解し、現在の経営現象を歴史的な視点を用いて説明できること。</li> <li>・グループワークを通じて、グループでの問題解決能力とプレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>・問題意識に基づき、先行研究を収集整理し、実証的に分析する手法を習得する。</li> </ul>			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営史に関わる基礎的知識、理論が習得できる。</li> <li>・チームワークで研究課題を解決することを学べる。</li> <li>・問題意識に基づく研究活動とそれをまとめる能力が鍛えられる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 平常点60% (出席、発言、参加姿勢)、小論文40%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【選考基準】</b> 面接によって選考する。 選考基準は、以下の三つを重視する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲</li> <li>・コミュニケーション力</li> <li>・協調性</li> </ul>			
<b>【授業計画並びに授業及び学習の方法】</b> 第1回 オリエンテーション：第1学期の授業に関する説明と課題設定 第2～9回 経営史に関する文献の輪読 第10回 グループワーク：ディスカッション・テーマ設定 第11～14回 グループワーク：テーマに即した先行研究の学習とプレゼンテーション 第15回 まとめ  第16回 オリエンテーション：第2学期の授業に関する説明と課題設定 第17～21回 文献輪読・ディスカッション 第22回 各人の卒業論文テーマ設定 第23～26回 各人のテーマに即した先行研究の学習と発表 第27～29回 各人のテーマに即した卒業論文の構想発表とディスカッション 第30回 まとめ			

教科書・参考書等

教科書指定なし。

参考書については、受講生と相談の上、指定する。

オフィスアワー

火曜日の三時限目。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【平成31年度個別演習選考基準】

演習の成績、卒業論文の計画内容によって判断する。

【平成31年度個別演習単位認定方法】

平常点50%（出席、発言、参加姿勢）、卒業論文の中間報告50%で評価する。

【平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方法】

- ・経営史の分野におけるテーマ設定であること。
- ・先行研究を体系的に整理し、実証的に論述を展開している。
- ・研究の意義と限界を明白にしている。

自学自習について

授業内容は個人またはグループで事前に準備する必要がある。

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323763) 演習 (大杉) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 大杉 奉代	関連授業科目	中小企業経営論, 経営戦略論A	
	履修推奨科目	経営戦略論B, 経営組織論A・B, 調査データ分析, 経営統計学	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 本演習では, 中小企業経営論や経営戦略論に関する輪読やケーススタディ, フィールドワークを兼ねた合宿などを行いながら, 戦略的思考を鍛えていく。このため, 自ら学ぶべきことを明確化し, そのために為すべきことを自ら考えて行動する意欲的な方の参加を期待する。  主な内容は, 以下のとおりである。 ・中小企業経営論や経営戦略論の分野に関する研究方法と課題に関する文献を輪読し, ディスカッションを重ねることによって知識と問題意識を深めていく。 ・各自の問題意識にもとづいて選定した研究論文の論評やディスカッションを行うことで論文作成の方法を身につける。 ・グループワークや他のゼミナールとの交流を通じて問題解決能力, 論文作成能力, プレゼンテーション能力を身につける。			
<b>【注意点】</b> ・本演習は個別演習と合同で行う。 ・本演習は設定された時間割のコマを超えてゼミを行う。 ・合宿や他大学との合同ゼミなどのために費用(交通費など)がかかる点も十分考慮すること。 ・ゼミ欠席に関しては, 事前連絡(都合により事後連絡可)だけでなく欠席届(講義の際に提出するものと同じ様式)の提出を求める。			
<b>授業の目的</b> 個別演習・卒業論文に向けた準備段階として, 中小企業経営論, 経営戦略論との分野でのより専門的な知識と研究遂行や論文執筆に必要な基本的なスキルを習得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・中小企業経営論についての応用的な知識を述べることができる。 ・経営戦略論についての応用的な知識を述べることができる。 ・他者の研究成果に対する建設的な批判を行うことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・発表資料と発表内容40% ・ディスカッションへの貢献度30% ・レポートの内容30%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【選考基準】</b> 面接によって選考する。 選考基準は, 以下の3つを重視する。 ①学習意欲 ②積極性 ③協調性  <b>【授業計画並びに授業及び学習の方法】</b> 前半は, 中小企業経営論や経営戦略論の分野に関する文献を輪読する。指定する文献について担当者が報告し, ディスカッションを行う。報告者以外も予習において精読し, A4用紙1枚程度にまとめ, 意見をもっておくことを求める。後半は, 個人の問題意識にもとづいて選定した研究論文の論評やディスカッションを行い, 1月末までに10,000字程度のレポートを作成することと, グループにてケーススタディ, フィールドワークを行い, 報告資料(パワーポイントでのプレゼンテーション)を作成することを求める。			

教科書・参考書等

- ・小笠原喜康（2009）『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書
- ・授業ごとに資料も配布する
- ・その他参考書については、適宜紹介する

オフィスアワー

特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

平成31年度個別演習選考基準

- ・3年生の演習から継続する場合は、特に選抜を行わない。
- ・4年生から新規に個別演習に参加したい場合は、志望理由書、研究計画書および面接により選考する。

平成31年度個別演習単位認定方法

卒業研究の進捗状況と成果、ゼミ活動へのコミットメントと貢献により総合的に評価する。

平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方法

卒業論文は、以下の条件を満たさなければならない。卒業論文の完成度と面白さに応じて評価を行う。

- ・先行研究を踏まえた上で書かれていること
- ・書式にそって書かれていること（書式については別途指示する）
- ・論理性と独創性を持っていること
- ・研究倫理に十分な配慮・対応をしていること
- ・文字数は20,000字以上

ナンバリングコード B4BSN-bacE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 323765) 演習(細見) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期金5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 細見 正樹	関連授業科目	経営組織論A・B、人的資源管理論A・B、経営統計学	
	履修推奨科目	経営組織論A、人的資源管理論A・B、経営統計学	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 本演習では、次年度に卒業論文を書くために必要となる専門的知識、スキルを学習することを目的としている。主に前半は、卒業論文を作成するための専門的知識を習得するため、論文や研究方法等について学習するとともに、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。 後半は、グループに分けた上で、テーマを設定の上でグループ研究を行う。また、卒業論文に向けて各人ごとに関心のあるテーマについて決定し、関連する文献についてプレゼンテーションを行ってもらう。 また、ゼミ合宿や他大学との合同ゼミ、実践型インターンシップにも取り組む。			
<b>授業の目的</b> 本演習では、将来的に卒業論文を書くために必要な専門的な知識や実証論文とはどのようなものかや研究方法について学ぶ。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて発信力を身につけるとともに、グループで設定した課題を探究し、問題解決する能力を養っていく。さらに、グループ活動やディスカッションを通じて、自分の意見を積極的に発信し、議論するスキルを学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営管理論、人的資源管理論、産業組織心理学に関する専門的知識を説明できる。</li> <li>・実証論文の構成や調査方法について、概要を説明することができる。</li> <li>・専門的知識を用いて、自らの意見を伝えるようになる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> 平常点、宿題、チームの発表内容等を総合的に評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【選考基準】</b> 希望者が多い場合は面接を行う。面接に当たっては、以下の内容をA4半分～1枚に記載したものと、最新の成績表を持参すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学生生活、アルバイト経験</li> <li>・関心のあるテーマ、今後研究したい内容</li> <li>・ゼミ活動への抱負</li> </ul> (選考基準) 以下を総合的に勘案して決定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関心・興味</li> <li>・協調性</li> <li>・積極性</li> <li>・ゼミの優先度</li> </ul>			
<b>【授業計画】</b> 前半：専門的知識や論文の書き方に関する論文を輪読する。発表者は、議論をリードすることが求められる。発表にあたっていない人も事前に資料を読み込み、議論に積極的に参加する必要がある。 後半：グループに分かれて研究に取り組む。また、個人ごとに卒業論文のテーマを考える。 また、以下のような取り組みもおこなうため、ゼミの時間帯以外にも取り組むが必要になる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ合宿</li> <li>・他大学との合同ゼミ(秋頃)</li> <li>・実践型インターンシップ(他ゼミとの共同)</li> </ul>			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書・参考書については相談の上決定します。			
<b>オフィスアワー</b> 開講時にアナウンスする。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b>			
<b>【平成31年度個別演習選考基準】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本演習の受講者は平常点により選考する。</li> <li>・他演習からの移籍の場合には、本演習の基準に基づき、研究計画書および面接により選考する。</li> </ul> なお、本演習の受講生も含めて、来年度の個別演習希望者は「経営統計学」を受講することを必須とする。			
<b>【平成31年度個別演習単位認定方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究および平常点により単位認定する。</li> </ul>			
<b>【平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】</b> 下記の要件を満たしている場合に卒論としての提出を許可し、その内容に応じて評価を行う。			

- ・経営学に関する研究テーマが選択されていること
- ・研究論文作成の様式に則っていること
- ・先行研究を整理し、学術的・実践的意義を有するもの
- ・分量の目安は20,000字以上

なお、グループ活動、ゼミ合宿等、現地調査等講義の時間以外にもゼミ活動を優先することが求められる。無断欠席、遅刻は厳禁とする。

なお、後期からは、木曜日5限目に変更する予定である。

ナンバリングコード B4GE0-cebE-20-Ef4 授業科目名 (時間割コード: 333780) 演習(原) Seminar 地域活性化アクションリサーチ	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 cebE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 原 直行	関連授業科目	エコソリズム論	
	履修推奨科目	エコソリズム論	
学習時間 授業90分×30回+自学自習			
授業の概要 教室での学修とフィールドでの実践により、地域活性化につながる地域振興策を企画・実践する。(このような手法をアクションリサーチという) 県庁・市役所、企業、農協、NPO、住民とともに活動する。 社会が大学教育に強く求めているチャレンジ精神、課題探求・解決力が身につくが、そのためには行動力、思考力、コミュニケーション力が要求される。			
授業の目的 地域活性化につながる地域振興策を企画・実践することにより、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち自信をもって社会に出ることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. チャレンジ精神が身につく。 2. 課題探求・解決力が身につく。 3. コミュニケーション力が身につく。 4. 能動的な学習をもたらす主体的な学習ができる。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加態度(積極性など)・参加内容(取組内容)、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>・選考基準 面接を行う。これまでの学生生活での活動内容、学修内容、積極性等をみるが、重視するのは行動力、思考力、コミュニケーション力である。</p> <p>・授業計画並びに授業及び学習の方法 1年間かけて、教室での学修とフィールドでの実践との融合をはかる。 第1回～第7回 テキスト輪読1 第8回～第15回 第1回研究課題報告 + テキスト2輪読 第16回～第22回 夏休み課題報告 + テキスト3輪読 第23回～第30回 第3回研究課題報告 + テキスト4輪読 ※研究課題は各自の取り組んでいる課題であり、1年生や2年生の時から取り組んでいる課題や活動に継続して取り組んでよい。</p> <p>&lt;教室での学修&gt; ・経済学、経営学、社会学的視点を学ぶ。 ・アンケート分析、質的分析を学ぶ。 ・アクションリサーチを学び、実際に行う。 ・チーム編成による課題解決型学習方法(PBL)を取り入れる。</p> <p>&lt;フィールドでの実践&gt;※例えば以下のようなものが考えられる。 ・農泊を主としたグリーンツーリズム振興：香川県との連携事業 ・里海里山を使ったエコソリズム振興：香川県との連携事業 ・食による地域活性化：香川県との連携事業 ・東かがわ市における定住促進：東かがわ市との連携事業 ・香川県産農産物のブランド化：香川県農協との連携事業 ・旅行商品の企画・販売：JR四国との連携事業 ・キャリア支援に関する企画・実践：香大キャリア支援センターとの連携事業</p> <p>&lt;自学自習&gt; フィールドに関する資料収集・分析を行い、当該フィールドについての理解を深める。</p>			

教科書・参考書等 授業時に指定する。
オフィスアワー 木曜3限
履修上の注意・担当教員からのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度個別演習選考基準 演習でのレポートおよび取組姿勢によって選考する。</li> <li>・平成31年度個別演習単位認定方法 授業およびフィールドワークへの参加態度（積極性など）・参加内容（取組内容）、卒論等により総合的に判断する。</li> <li>・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 演習での課題を卒論にする。20,000字程度が目安だが、量より質を重視する。</li> </ul>

ナンバリングコード B4SCL-abcE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード：333790) 演習 (宮島) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 宮島 美花	関連授業科目	アジア社会論	
	履修推奨科目	アジア社会論、アジア関連の講義および外国語	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
授業の概要 コアとコリアンを主としつつ、広くアジア（日本を含む）への関心をゼミ共通の大きなテーマとする。全員でのテキストの輪読、学術論文の執筆ルールなどを体験的に学ぶ過程を経て、受講者がそれぞれ興味を寄せる具体的な関心テーマを設定し、その関心を深めていき、報告する。その発展の形で、最終的には個別演習で卒業論文がまとまるようにつなげる。			
授業の目的 卒業論文に必要な専門分野の知識および基本的な文章作成能力を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 演習テーマに関するレジュメおよびレポートを書くことができる。 2. 演習テーマに関するプレゼンテーションができる。 3. 演習テーマに関する討論ができる。 4. 1年間の学習の集大成としてゼミ論を書くことができる。			
成績評価の方法と基準 毎回の演習への参加、研究発表、提出物などを総合して認定する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>・授業計画</p> <p>(1) 地域研究とはどのような学問かについてのテキストの輪読</p> <p>(2) これまでの宮島ゼミの学生たちが書いた卒論について書評を行う</p> <p>(3) 学術論文の執筆ルールなどを体験的に学ぶ</p> <p>(4) 自らの関心に基づいて自身の研究テーマを設定し、順番での報告を重ねる。学生間で質疑応答を行う。</p> <p>(5) 3年次の1年間のゼミ学習の集大成として、3年次ゼミ論をまとめる。主張や説明を読み手に理解させる構成となっているかどうか、論文としてふさわしい語彙・文体かどうか、特に無意識のうちに話し言葉で書いている学生が少なくないので学生間で指摘しあい、意見交換を行う。</p> <p>(6) 他ゼミとの合同で、研究報告会などの合同ゼミ活動を行う。参考として、過去の例では、①3年次：他ゼミの4年生の卒論経過報告ないし卒論報告を聞き、質問や感想を述べ、自身の現時点での研究関心を紹介する。②4年次：他ゼミの3年生、4年生に向けて卒論経過報告を行い、他ゼミの3年生に向けては卒論執筆に関する自らの経験や反省点などを紹介してアドバイスする。合同卒論報告会で卒論報告を行い、聴衆からの質問や意見を受けて対応する。</p> <p>・選考基準</p> <p>選考では面接を実施し、(1) 志望動機、(2) 現時点でどのようなテーマに関心を持ってこのゼミに参加したいか、を質問する。拙くてもかまわないので(テーマ変更可能である)、現時点で自ら進んで調べてみたいと思う関心やテーマがある学生を歓迎する(4年次になっても卒論テーマを決めることができない学生＝自分から特に調べてみたいと思うような関心事はない、という学生がいるため)。関心の地理的範囲は日本を含むアジアとする。</p> <p>過去の宮島ゼミ生の研究テーマの一例は以下のとおりである。</p> <p>「コンビニの深夜営業：現状と課題」</p> <p>「ゆとり教育の再検討」</p> <p>「日本におけるK-POP流行」</p> <p>「日本の電子マネー：その特徴と展望」</p> <p>「自動車販売傾向と価値観：日韓比較から」</p> <p>「インターネットにおける人権侵害：現状と課題」</p> <p>「日本における韓流としての韓国食品：流行の背景・契機・過程」</p>			

<留意点>

- ・ゼミ生は担当教員の講義科目「アジア社会論」（前期、金2）を履修すること。スムーズなゼミ運営のためにゼミ生全員が同じ知識を獲得している状態にする。理由があって履修できない学生は面接のときに申し出ること。この科目の指定テキストを、上記の「授業計画」のうちの「(3) 学術論文の執筆ルールなどを体験的に学ぶ」際のテキストとしても使用する（引用の仕方、注のつけ方をゼミで説明しても、それを守らずに、自分勝手な、適当なつけかたをする学生が少なくない）。また、その「体験」の素材として、今年度は、ゼミ生全員で「栗林公園」をテーマとするゼミ論を分担執筆し、まとめる予定である。そのため、栗林公園へのフィールドワークを行う日がある。学外活動のため学校の保険に必ず加入済みであること。
- ・（特に報告担当時の）無断欠席・遅刻は厳禁とする。急病、急用等やむを得ない場合（就職活動理由を含む）は事前に連絡すること。「今日の報告準備が間に合わず、少し遅れていくと先生に伝えておいてほしい」と他のゼミ生に伝言を頼み、他のゼミ生を待たせるような行為（全体への迷惑）は禁止する。繰り返される場合は演習、個別演習の評価は不合格（不可）とする。
- ・自分以外のゼミ生の発表をよく聞き、自分の報告時に反映させること。大半のゼミ生が、そのようにして、自分の研究を展開し論文を執筆できるようになっていくなかで、他のゼミ生の報告から学ぶ姿勢に欠ける（＝聞いていない）一部の学生に、いつまでも研究スキル、執筆スキルが身につかない学生が見受けられる。そのような学生に個別に特別指導のようなものは行わず、演習、個別演習、卒業論文の評価は不合格（不可）となるので、留意すること。
- ・例年は、前期・後期の各学期の、序盤と終盤、つまり年4回の懇親会を行っている。懇親会の企画と実施はゼミ生自身が担当する（当然ながら未成年の飲酒は厳禁である）。

教科書・参考書等

宮島美花『中国朝鮮族のトランスナショナルな移動と生活』（国際書院、2017年）（定価3,400円＋税）。大学生協書店で1割引で購入できる。

オフィスアワー

毎回の授業後に質問・相談を受け付けるほか、研究室で受け付ける。ただし会議等で不在にする場合もあるので、事前に申し込み約束をすること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・平成31年度個別演習選考基準  
演習での取り組み状況、研究を行って論文を執筆する基本的な技能と能力、協調性。他の演習履修者については、面接を実施して成績（含・演習）や本人の研究テーマなどを勘案し決定する。
- ・平成31年度個別演習単位認定方法  
ゼミ活動および卒論への取り組みの様子などを見て判断する。
- ・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針  
2万字程度を目安とする。（1）卒論としてふさわしい問題意識・研究目的の設定、（2）適切な資料・文献の使用（3）適切な語彙・文体での表現力（4）長文を展開する構成力、を見る。

ナンバリングコード B4SCL-bcxE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 333794) 演習(山本) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応20
	授業形態 Ex	単位数4	
担当教員名 山本 裕	関連授業科目	日本社会経済史、経済史入門、経営史、ヨーロッパ社会経済史	
	履修推奨科目	日本社会経済史、経済史入門、経営史、現代韓国・朝鮮研究、アジア経済論、ヨーロッパ社会経済史	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> <p>本演習では、近現代日本社会経済史、近現代日中経済関係史、近現代東アジア関係史について研究を行います。</p> <p>演習参加者は個別の研究テーマについて研究を進めていきますが、同時に、他の演習参加者の研究テーマについても我がことのように捉え、議論することを求めます。また、学内の他の演習受講者、本学にとどまらない他大学の日本経済史演習受講者とも研究交流を行い、議論を積み重ねて、受講者各自の学術面にとどまらない成長を期することとします。</p> <p>また、今年度は、経済学部が県下の高校と実施している「高大連携・共同の学び講座」に全面的に参加します。演習受講者は、「地域社会経済の近現代史的考察」とする論題について、高校生を相手に、演習受講者自らが調べた内容について、高校生の前で発表し、高校生と共に、歴史的観点から地域社会経済の諸問題を議論していくことを求めています。</p> <p>なお、2016年度・17年度「演習」受講者の卒業論文テーマは以下の通りです。「授業の目的」欄で示した、演習で扱う学問領域を大幅に超えたテーマも散見されますが、受講者の積極的態度で、このようなテーマも可能となることを付言します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「食品小売業における食品ロスに対する分析と対策について」</li> <li>・「日本における西洋楽器産業の生成と発展—ピアノ・オルガンを中心に—」</li> <li>・「モンスターペアレントの発生要因と現状の考察」</li> <li>・「タウン誌について—地域メディアの再考—」</li> <li>・「学童保育の展開とその存在意義」</li> <li>・「女性のダイエットと瘦身願望(仮)」</li> <li>・「日本の居酒屋について—立ち呑み屋の魅力—(仮)」</li> <li>・「アイドル市場(仮)」</li> <li>・「日本におけるカフェの展開(仮)」</li> <li>・「アニメ映画のヒット要因について(仮)」</li> <li>・「食育における地域の役割(仮)」</li> <li>・「テーマパークの成功と失敗—何故東京ディズニーリゾートは成功しているのか—」</li> <li>・「CD売り上げ減少から見るこれからの音楽市場(仮)」</li> <li>・「メディアを通してみる近代女性像の変遷(仮)」</li> <li>・「地域活性化につながるスポーツの存在」</li> <li>・「フットボールとフーリガンについての考察」</li> <li>・「食を通じた朝鮮と日本のつながり(仮)」</li> </ul>			
<b>授業の目的</b> <p>「授業の概要」欄で述べた如く、近現代日本社会経済史、近現代日中経済関係史、近現代東アジア関係史について研究を行う事を目的とします。</p> <p>上記目的を達成する上で、受講者には、19世紀後半～20世紀中葉までの時代を中心に、日本に軸足を置いて、社会経済の歴史を広義に捉えた上で研究を行うことを要求します。</p> <p>何故ならば、日本経済の歴史の変容を問うのであれば、国民経済・経済政策等のマクロ的領域にとどまらず、産業・企業といったミクロ的領域、近現代日本経済が選択した「積極的」な対外経済進出(＝アジアの中の日本経済・日本企業)の歴史の変容をも視野に入れて考察する必要があるからです。また、日本社会の変容を問うのであれば、社会を構成する諸要素(外交や軍事を含む広義の政治、文化、教育、「生ある全てのもの」)の歴史の変容をも視野に入れて考察する必要があります。このような広い問題関心を有した上で、個別の研究テーマを選択して下さい。</p> <p>本演習を受講することで、広い視野から日本経済・社会の歴史の変容を考察する能力が身に付き、広い問題関心を有した上で個別の研究テーマを選択することが可能となり、他の演習参加者の研究テーマについても自らのことのように捉え、議論できるようになるでしょう。</p>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 日本経済・社会の歴史の変容について、広い視野から考察できるようになる。 2) 広い問題関心を有した上で、個別の研究テーマを選択できるようになる。 3) 他の演習参加者の研究テーマについても自らのことのように捉え、議論できるようになる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <p>研究報告と議論への参加、輪読における報告と議論への参加、夏合宿の参加とゼミ交流(後述する夏と冬の研究会)、 「高大連携・共同の学び講座」における参加・取り組み、年度末における卒業論文中間報告(原稿も提出)等</p>			

を見た上で、総合的観点から単位認定を行います。

#### 授業計画並びに授業及び学習の方法

【選考基準】第一次選考では、卒業論文の研究計画書の提出を求めます（A4用紙1枚程度）。「研究題目」、「研究テーマ選択理由」、「選択した研究テーマに関する先行研究リスト」、「先行研究リストに記した文献（1点以上）に関する簡単な内容紹介と、同文献で説明された研究内容」を記して下さい。可能であれば、「研究を行う上で用いると思われる資料（『三菱商事社史』等の社史、『香川県史』等の自治体史、統計資料等）」も記して下さい。第二次選考では、卒業論文で取り組みたいことに関するメモの提出を求めます（A4用紙0.5枚程度）。「研究題目」と「研究テーマ選択理由」を記して下さい。なお、演習選考面接の際には、成績表のコピー提出を求めます。成績表を閲覧することで、志望者各自の2年生までの講義への取り組み等を質問します（悪い成績だからといって、それだけで演習履修・受講を認めないということはありません）。また、上記計画書の内容に関する質疑応答も行います。

【夏季合宿等】2018年度は、夏季合宿（2泊3日。9月開催予定）と、慶應義塾大学文学部前田廉孝研究会（ゼミナール）との研究交流会（於 箱根。2泊3日。9月開催予定）、立命館大学経済学部細谷亨ゼミナールとの、冬季研究交流会（香川大学にて12月開催予定）を行います。原則として、合宿・研究交流会には必ず参加することを要求します（諸事情で参加が不可能な場合は、事前に相談すること）。9月の夏季合宿では、卒業論文の中間報告をしてもらいます。夏合宿の開催地は4月以降に演習受講者・個別演習受講者の意見を徴した上で決定しますが、一定程度の交通費と滞在費を準備して下さい。また、神奈川県箱根で開催される前田廉孝研究会との研究交流会についても、交通費と滞在費を準備して下さい。

【高大連携・共同の学び講座】香川県下の高校生を相手に、「地域社会経済の近現代史的考察」という論題の下、演習受講者には高校生を対象とした自分たちの調べた内容について（どのような内容にするかは、演習受講者が主体的に選択します。【講義計画】に記した輪読文献、『香川県の百年』『日本経済史—近世から現代まで』の読解を通じて調べる内容を決めてください）高校生の前で発表し、高校生と共に、歴史的観点から地域社会経済の諸問題を議論していきます。

【講義計画】本演習を受講する上で、前の時限の「個別演習」も受講することを要求します。「演習」・「個別演習」担当者として、両演習を2つの学年の受講者が連続して受講し質疑応答を繰り返すことに高い教育効果が認められると確信するが故に、連続受講を要求します。進級・卒業等の観点から「個別演習」に参加できない場合は個別に相談しますが、基本的には「個別演習」・「演習」の連続受講しか認めません。

以下のスケジュールで演習を行う予定ですが、受講者の理解や研究の進展等により、変更する可能性があります。

第1回：ガイダンス

第2～第7回：武田晴人編『新版 日本経済の事件簿』輪読と質疑応答

第8～第14回：卒業論文第1回報告と夏合宿報告に向けた研究の構想に関する質疑応答

第15回：前期のまとめ（各自が夏休みに従事する研究領域の確認。夏合宿で卒業論文第2回報告を実施）

第16～第21回：『香川県の百年』『日本経済史—近世から現代まで』の輪読と質疑応答

第22～第24回：立命館大学との冬季研究交流会に向けた準備作業の報告

第25～第30回：卒業論文第3回報告と翌年度「個別演習」前期報告に向けた研究の構想に関する質疑応答

テキストの輪読については、リポーター以外も精読して、論点を事前に考えておいて下さい。

卒業論文報告においては、リポーターが卒業論文を執筆する上での根幹文献を他の受講者にも事前に配布し、根幹文献のレポートと併せて各自の卒業論文の構想を報告します。聴講者は事前に指定された各文献を精読し、論点を考えた上で参加します。

#### 教科書・参考書等

【教科書】武田晴人『新版 日本経済の事件簿』（日本経済評論社、2009年、3,000円＋TAX）、伊丹正博・細川滋・徳山久夫『香川県の百年』（山川出版社、2003年、2,300円＋TAX）、沢井実・谷本雅之『日本経済史—近世から現代まで』（有斐閣、2016年、3700円＋TAX）。

【参考書】三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010年、2800円＋TAX）。

ただし、教科書は教員がまとめて購入し頒布（販売）することとしますので事前に用意しなくて大丈夫です（『新版 日本経済の事件簿』は定価の2割引き＋TAXで、『日本経済史—近世から現代まで』は定価の1割引き＋TAXで頒布できます）。参考書は、必要に応じて購入をお願いする可能性がありますが、購入しないで済む可能性もあります。

オフィスアワー 木曜日6・7時限。また、メールにて事前連絡してもらえれば、随時対応します。

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

##### 【平成31(2019)年度個別演習選考基準】

平成30(2018)年度に演習を受講し、翌年度に引き続いて個別演習を受講したい学生は、年度末までに8,000文字以上の、「卒業論文中途原稿」の提出を求めます。文章化出来るところは文章化し、今後研究すべき領域についてはその展望を記して、提出して下さい（詳細は「演習」時間中に改めて説明します）。1年間の「演習」に関する取り組みの程度と、上述した「卒業論文中途原稿」の内容について、総合的観点から判断した上で、個別演習の受講を許可します。なお、前年に「演習」を受講せず、新たに「個別演習」を受講したい学生については、「個別演習(山本)」の該当項目を参照して下さい。

##### 【平成31(2019)年度個別演習単位認定方法】

毎回の個別演習参加状況と取り組み、前期・夏季合宿・後期における報告内容等を踏まえて、総合的観点から評価します。

##### 【平成31(2019)年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

執筆する卒業論文については、文字数の上限・下限は設定しません。ただし、「課題と視角」、「先行研究整理」、「本論」を兼ね備え、かつ、社史や自治体史の引き写しにとどまらない、これまでの先行研究に対してわずかであっても、新しい知見を盛り込んだ、オリジナリティのある卒業論文を執筆して下さい。「演習」においては、最低3回の卒業論文に関する報告（前期・夏合宿・後期）を行い、修正・再調査・再検討を経て卒業論文を作成していきます。

ナンバリングコード B4GE0-cdeE-20-Ep4 授業科目名 (時間割コード: 333792) 演習(西成) Seminar まちづくり・デザイン研究	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 cdeE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ep	単位数 4	
担当教員名 西成 典久	関連授業科目	まちづくり論、瀬戸内地域活性化プロジェクト	
	履修推奨科目	まちづくり論、瀬戸内地域活性化プロジェクト	
学習時間 研究発表・作業等90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 衰退する地域には何が必要なのでしょうか、高齢過疎化は問題なのでしょうか。 これまで着実につくりあげられた人口拡大社会の仕組みを根本から見直し、環境・エネルギーや合意形成(政治)の問題に対応する新たな社会づくりが「まちづくり」に求められています。 本ゼミでは、「デザイン」の力でこれらの問題解決に取り組みます。ここでいう「デザイン」は、絵を描くような“デザイン”ではなく、「具体化する行為」を「デザイン」と呼んでいます。社会の仕組みが大きく変化する今だからこそ、新たな発想で地域に価値を生み出していく必要があります。これまでの常識を見直す「デザイン」的思考が必要なのです。 人も思考も創造的に、ゼミ活動も創造的にいきましょう。			
<b>授業の目的</b> 学生自身が自分の問題意識・興味関心を明確化し、主体的な学びを得ることが目的です。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①研究の思考方法・やり方を習得する 重要なことは、自分自身の問題意識を明確化し、認識することです。			
②プロジェクトの運営能力を身につける 実社会で求められていることは何か、地域の問題を解決するために、複数人でプロジェクトを行う運営能力を身につけます。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 「研究」と「プロジェクト」への取り組み姿勢と成果。ゼミでの発言と主体性。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ≪選考基準≫ 選考基準は「やる気(本気で取り組めるか)」と「適性(興味や自主性)」です。 ゼミで取り組みたいこと、将来やりたいことなど、志望理由書を提出してもらいます。 地域での活動や学生プロジェクト等の経験がある学生を求めます。  ≪授業計画並びに授業及び学習の方法≫ 本ゼミでは、①個人研究と②プロジェクトが二本柱です。  ①個人研究 「まちづくり×○○」 この○○に各自の興味・関心を入れてください。  「研究」はすでに世の中で明らかになっていることを「学ぶ」のではなく、これまで明らかとされていなかった知見や事柄を「追及」していく、極めて創造的な思考方法です。各自の問題意識に従い、自分の知的関心を広げていってください。  昨年までの卒業論文タイトルをいくつか紹介します。 卒業論文 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生プロジェクトにおける組織づくりと人材育成に関する考察</li> <li>・瀬戸内国際芸術祭をきっかけとした地方移住者の価値観と働き方の実態</li> <li>・理想地区づくりによるコミュニティの主体意識形成に関する実践的研究</li> <li>・銭湯にみる高松の都市生活とその変遷に関する研究</li> <li>・公共空間における芸術・音楽を通じた文化政策に関する研究</li> <li>・倉敷美観地区における賑わい創出プロセス</li> <li>・栗林公園作庭史にみる香川茶の発祥とその後の伝播</li> <li>・まちづくりにおけるゆるキャラのデザイン特性</li> <li>・森林を活用した医療・福祉行為に関する事例研究 など</li> </ul>			

## ②プロジェクト (PBL)

ゼミでは学生自身が主体的に取り組めるプロジェクトを運営しています。

毎年、プロジェクト内容やテーマは少しずつ変わりますが、現段階では以下の内容を考えています。

### ・屋島山上ちようちんカフェ

ゼミメンバー全員で取り組むプロジェクトです。詳しくは以下のWebを参照のこと。

屋島山上ちようちんカフェ公式Webサイト <http://chouchincafe.wixsite.com/home>

### ・コミュニティデザイン

「コミュニティの主体づくり」(Community Empowerment) をテーマとして、県内各所のまちづくりプロジェクトに携わっています。代表的なプロジェクトは五郷地区 (<http://gogou.jp/>) です。その他のプロジェクトは研究室のWebを見てください。

### ・まいまいmapプロジェクト

丸亀町商店街から依頼を受け、まちなかループバスの利用促進策を考えています。

歴史的なものへの意識が低い高松を少しでも変えていくために、古い地図と今の地図を比べながら、まちの足跡を現代につなげるプロジェクトです。

### ・その他プロジェクト

空き家の再生や民泊経営、フットパスによる里づくりなど、その他のプロジェクトについても検討中。

## 教科書・参考書等

適宜紹介します。

## オフィスアワー

研究室にて随時対応します。

## 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

### ・平成31年度個別演習選考基準

基本的に希望者は継続して受け入れます。

### ・平成31年度個別演習単位認定方法

研究への取り組み姿勢と成果。ゼミ活動への主体的参加。

### ・平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針

卒業論文は読み手に一定のクオリティを超えた知的刺激を与えなければなりません。

それぞれの問題意識・興味関心からオリジナリティのある研究に取り組んでほしいです。

ナンバリングコード B4SCL-bacE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 333776) 演習 (緒方) Seminar 文化人類学演習 Seminar in Anthropology	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目	文化人類学アジア文化論	
	履修推奨科目	文化人類学	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<p>授業の概要</p> <p>文化人類学は、地球上の諸民族の文化・社会を比較研究する学問です。この演習では、政治、経済、宗教と文化、グローバル化など、現代社会を理解する上で不可欠なテーマについて、人類学の文脈の中でいかに探求されてきたのか、その研究蓄積と隣接する社会学的及び経済学的観点から学びます。</p> <p>具体的には、前期では、文化人類学の専門基本文献の講読を通じて、初めに（Ⅰ）文化人類学の理論と方法論について学び、次いで（Ⅱ）資料を収集し分析する手法と（Ⅲ）発表と議論の技能を習得する。（Ⅳ）卒業論文の執筆に向けて、研究テーマを探す。</p> <p>夏休みの時期には、卒業論文の個人研究に向けて、文献研究・フィールドワークを進める。</p> <p>後期では、自分の研究テーマについての構想を具体化していき、レポートは全員に配布しあい、授業で発表を行い、卒論執筆につなげるものとする。演習終了時にはリサーチ・プロポーザル（研究計画書）を必ず完成させる。</p> <p>文化人類学の特徴的な研究方法として、研究対象である地域に実際に滞在し、その文化・社会に自ら参与して観察するフィールドワークという手法がある。卒業論文は、必ずしもフィールドワークを実施する必要（必須）はないが、文化人類学または社会学、民俗学の視点・理論・方法論で考察した研究に限定する。卒論の研究テーマは、次のような研究領域がある。</p> <p>①呪術・宗教・儀礼的諸実践、民間信仰（宗教人類学領域）、②政治参加と政治文化（政治人類学領域）、③人間社会における「economy」の本義・本源の意味を問い直す経済人類学領域、④香川県ほか日本国内の民俗社会研究（社会学及び日本民俗学領域）、⑤そのほか（アニメ研究、ジェンダーと家族観、開発と文化変容、自然環境と文化、建築文化（風水・家相）、食文化（郷土料理）等）などがある。またゼミ生の出身県や生まれた場所、育った場所に関する民俗・習慣、社会現象についてこれまで未調査であり、人類学的研究にとって新たな民族誌的貢献となるような研究テーマについては、大いに歓迎する。</p> <p>2017年度ゼミ生の卒論題目</p> <p>『お盆の供え物に関する文化人類学的研究—香川県小豆島の事例を中心に—』 『地域活性化政策による地域祭りの利用の実態に関する文化人類学的研究 —高松市木太町の「あまから水祭り」の事例を中心に—』 『地域文化観光における「地域性」の実態に関する文化人類学的研究 —香川県三豊市詫間町における浦島伝説を事例中心にして—』 『地域社会と担い手の変容による伝統的祭りへの影響 —香川県高松市男木島の夏祭りの事例を中心として—』 『岡山県の郷土料理の今日的特徴に関する文化人類学研究 —作られている料理と作られていない料理を比較して—』 『祭りの観光化が地域社会に与える影響 —岡山県岡山市西大寺の会陽の事例を中心に—』 『高知県の歳時行事と親類付き合いからみる今日の親族関係の実態 —高知県土佐市宇佐町の漁村の事例を中心に—』 『宮座組織の経験による氏子の信仰心—島根県美保神社を事例にして—』</p>			
<p>授業の目的</p> <p>この演習では、文化人類学の研究蓄積にもとづき、人間を他の動物から区別する基本的要件である「文化」の本質について考えることを目的とする。輪読および個人研究を通じて、資料検索と現地調査の方法・実践、効果的なレジュメとパワーポイントの作成・使用、議論・討論のスキルなど、卒業論文の執筆に必要な能力を身につける。</p>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<p>1. 文化人類学の基本的考え方や基礎知識を修得し、過去100年の間の主要な理論や論争など学説史を説明できる。</p> <p>2. 近代西洋社会、資本制経済社会の文化を絶対視せず、個別文化の数ある選択肢の一つとして捉える柔軟な思考ができる。</p> <p>3. 文化人類学的視点から市場経済や現代社会のあり方について考え、議論できるようになる。</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>出席、報告・発信、課題レポート、演習終了時に提出するリサーチ・プロポーザル（研究計画書）、ゼミでの貢献などを総合的に評価する。</p>			

### 授業計画並びに授業及び学習の方法

本年度は、前期に文化人類学に関する専門文献の講読を柱とし、以下の手順で演習を進めていく予定である。

- (1) 専門文献の講読（分担発表、ハンドアウトやPPT等の口頭発表資料の作成方法、コメントの技法）。
- (2) 対象文献の視点・理論・方法についての議論と総括（何をどのように理解したのか）。
- (3) 各自の問題関心の発掘（上記(1)(2)を手がかりに）。
- (4) 「その問題関心の解明に文献講読で得た理論や方法を実際に援用すれば・・・」あるいは「講読文献の欠点を補うとすれば・・・」という前提で、具体的にシミュレーションを試みる。
- (5) 「問題関心」を「研究テーマ」に仕立てる（research design）。

【自学自習に関するアドバイス】受動的な学習ではなく、学んだ理論や方法を使い、自分で「発信」することを常に念頭に置きながらこの文化人類学演習には臨んでほしい。

#### 【ゼミ生選考基準】

文化人類学演習を希望する履修者は、成績表のコピーを提出し、教員との面接結果によって後日決定する。

#### ★選考におけるチェックポイント★

- ・ 演習を通じて自分を成長させようとする意欲と学問に対する真摯さ、学ぶ意識を有していること。
- ・ 文化人類学または社会学、日本民俗学、またはある地域の文化や社会現象について関心があること。
- ・ 社会に出ても恥ずかしくないマナーとエチケット、そして常識と社交性を有していること。
- ・ 慣れ親しんだ見方や考え方から脱却して、活きた現実を捉え直すこと、その現実に即して新しく考えを展開することができること。
- ・ 調査者である自己と調査対象者である他者との間に生まれるラポール関係（信頼関係）を大事にしながら、卒論研究について誠意をもって取り組むことができること。

#### 教科書・参考書等

小田博志2010年『エスノグラフィー入門〈現場〉を質的研究する』春秋社3240円。

大学生協や書店、アマゾン等で各自購入すること。

#### オフィスアワー

火曜日4時限南キャンパス2号館3階。

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ゼミの無断欠席は許されない。90分の演習時間の背後には、その何倍もの発表者の準備活動と努力がある。ゼミ生の積極性と各自の真摯な取り組みを期待する。

#### 【平成31年度個別演習選考基準】

- ・ 演習への取り組み状況及び研究計画により選考する。

#### 【平成31年度個別演習単位認定方法】

- ・ 卒業研究の進捗状況に応じて単位認定する。

#### 【平成31年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

- ・ 文化人類学、社会学、日本民俗学の分野におけるテーマ設定であること。
- ・ 先行研究のパラダイムを把握しており、かつ論文に独創性と実証性、論理性があること。

ナンバリングコード B4SCL-abcE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 333977) 演習 (川端) Seminar	科目区分 必修科目	時間割 前期木5/後期木5	対象年次及び学科 3～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 川端 美都子	関連授業科目	アメリカ社会論, 外国語演習, グローバル社会概論 (文化社会論)	
	履修推奨科目	アメリカ社会論, 外国語演習, グローバル社会概論 (文化社会論), 異文化間コミュニケーション論	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (授業内容により延長の可能性あり)			
<b>授業の概要</b> 本演習では、1980年代以降、批判的理論・実践として大きく発展してきた「パフォーマンス理論」の基礎的知識を身につける。また、「フィールドワーク」や「エスノグラフィー」と関連した基礎的理論から実践までを学んでいく。さまざまな地域や国で見受けられる文化・社会現象について、批判的に分析することができるようになるために、理論と実践をバランス良く学びながら、研究に必要な「リサーチ力」、「読む力」、「説明する力」を養成する。 このような目的のために、演習内では教科書（日本語と英語）を輪読し、その内容を順番に要約・発表していく。その後、クラス全体での議論をするという形式を繰り返しながら、理論や方法（方法論）に対する理解を深めていく。この理解の過程には、実際に自分がパフォーマンス実践に参加するという行為も含まれている。 加えて、演習参加者は各自の卒業論文テーマに沿った、資料収集や先行研究の読解・分析を進めていくことになる。			
<b>授業の目的</b> 本授業の目的は、主に以下の3点である：①卒業論文の執筆や発表に必要な、文章読解能力（日本語と他言語）、論理的な文章作成能力や表現力を身につける；②さまざまな社会・文化現象について「パフォーマンス」という視点から、批判的に分析することができるようになる；③さまざまな方法を用いて、民族誌的調査を計画・実施することができるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 速く、かつ正確に文献を読むことができる 2) 自分の考えをレポートや、議論において、適切に（語彙・文法レベルにおいても）表現できる 3) エスノグラフィーやフィールドワークと関連したリサーチ法や方法論について説明でき、自分の調査内で実践することができる 4) パフォーマンス理論の基礎を説明でき、それを適用させて文化・社会現象を分析することができる 5) 卒業論文作成に必要な文献リストの要約（前期）と文献解題（後期）を作成することができる			
<b>成績評価の方法と基準</b> 以下の内容を総合的に評価する。 授業への積極的な参加（議論・要約発表）：25% 輪読する教材についてのReaction Paper：20% 期末発表：25% 文献要約・解題：30%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【演習選考基準】</b> 履修科目の成績、および面接により選考します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広く、さまざまなことに興味を持つことができる人、知識欲や探求心が強く、想像・創造力が豊かな人を求めています。</li> <li>・連絡がきちんと取れて、提出物を出せる人を優先します</li> <li>・自分のテーマに即してフィールドワークをしたり、調査・研究に十分な時間を割り当てることができる人を求めています</li> <li>・面接の際には、以下の内容を明記した書類（A4 1枚程度）を提出してください。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①実施したい研究のテーマとそれを選んだ理由</li> <li>②3年生の間に、どのように研究を実施するのかについて計画（おおまかなものでよい）</li> </ul> </li> <li>・輪読以外にもゼミと関連した活動のなかで外国語（英語を中心）を多く用いることがあります。研究室配属時点での語学力は問いません。ただし、その後の努力が求められます。</li> </ul>			

以下のような方は大歓迎です：

- ・自分の世界を広げたり、より良いものを生み出すための努力を惜しまない人
- ・自分本位ではなく、他者のことを思いやれる人
- ・一過性の興味で終わるのではなく、継続性・持続性を持って取り組むことができる人
- ・自分の考えを基に、迅速に計画を立て、行動に移せる人
- ・地球の裏側にでも行けるようなエネルギーに満ち溢れた人
- ・外国語（英語）の能力を伸ばして、実際に運用していきたい人  
（・舞台表現や音楽など幅広い分野に興味を持てる人）

#### 【授業計画】

○前期：

第1週目：イントロダクション テクノロジーとノートテイキング

第2-7週目：パフォーマンス理論とフィールドワークについての輪読・議論（1）

第8-11週目：事例研究・分析・パフォーマンス実践（1）

第12-14週目：発表・議論

第15週目：総まとめ

※1 前期は基礎的知識や分析方法についてしっかり学びます。

また、卒業論文の作成に必要な文献リストの作成もします。

そのうちの1つを選び、内容を発表します。

○後期：

第1週目：イントロダクション 文献解題とは

第2-7週目：パフォーマンス理論とフィールドワークについての輪読・議論（2）

第8-11週目：事例研究・分析・パフォーマンス実践（2）

第12-14週目：発表・議論

第15週目：総まとめ

※2 後期は前期で学習したことを基礎に、より応用力が求められるようになっていきます。前期で作成した文献リストについての文献解題（Annotated Bibliography）を作成します。

※3 前期・後期のどこかで、フィールドワークについて学習したことを実践するために、フィールドワークを実施することがあります。

※4 ゼミ旅行など、ゼミ運営に関わるイベントは、学生が主体で計画・実施・運営していくことになります。

#### 【授業および学習の方法】

演習時間内では、効果的にノートを取りながら（パソコンの利用可）、積極的に議論に参加すること。また、授業外でも、自主学習や調査に、継続して積極的に取り組んでいくこと（これが、いずれ卒業論文へと繋がっていくため）。また、輪読する教科書には英語のものがあるので、計画性を持って取り組む必要がある。

教科書・参考書等

#### 【教科書】

高橋雄一郎ほか。（2011）.『パフォーマンス研究のキーワード—批判的カルチュラル・スタディーズ入門』世界思想社，¥2,700（税込み）

Murchison, Julian. (2010). *Ethnography Essentials: Designing, Conducting, and Presenting Your Research*. San Francisco: Jossey-Bass. ¥5,000程度

Turabian, Kate L. (2007). *A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers*, 7th edition. Chicago: The University of Chicago Press. (中古品¥700程度)

その他、適宜資料を配布する。

3冊目については入手方法を第1回目の授業で説明する。

オフィスアワー 経済学部3号館3階 川端研究室 月曜：12時半～14時半

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「正当な」理由ではない遅刻・早退・欠席は認めない。また、他の受講者の学習の妨げとなる行為を繰り返す、授業・課題への十分な取り組みが見られない場合、単位は認定しない。

#### 【平成31(2019)年度個別演習選考基準】

演習の成績や卒論のテーマなどを基に、面接を実施して判断する。他の演習修了者については、演習の成績と卒論のテーマを考慮したうえで、面接によって判断する。

#### 【平成31(2019)年度個別演習単位認定方法】

毎回の個別演習参加状況、ゼミ運営への貢献、発表内容、卒業論文制作過程などを総合的に評価する。

#### 【平成31(2019)年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

本文（参考文献表を含めずに）20,000字以上（上限は設けない）。ただし、①オリジナリティがあること、②先行研究について批判的な議論が展開されていること、③課題や分析方法が明記され、かつ結論が明確であること、④ゼミで学習した理論、及び調査法が用いられていること、が必要である。また、参考文献表や引用方法についても評価の対象となる。